

2021 年
埼玉県感染症発生動向調査事業報告書

埼玉県感染症発生動向調査事業
(2021 年 1 週～52 週分)

感染症発生動向調査事業(2021年)の概要

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)の第12条から第16条に基づく全国サーベイランスで、埼玉県では「埼玉県感染症発生動向調査事業実施要綱」を定めこれを実施している。

2021年の発生動向調査では、新型コロナウイルス感染症については、「新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令(令和2年政令第11号)」により指定感染症に指定されていたが、「感染症法」の一部改正により、2021年2月13日から「新型インフルエンザ等感染症」に追加された。また、新型コロナウイルス感染症以外では、感染症法第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正によりマラリア、アメーバ赤痢及び百日咳の届出基準の項目に新たな検査方法が追加(2021年6月3日施行)され、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)の発生届に新たな記載項目が追加(2021年9月30日施行)された。

本資料では、全数把握疾患は診断日が2021年1月1日から12月31日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は2021年第1週(2021年1月4日～2021年1月10日)から第52週(2021年12月27日～2022年1月2日)まで、月単位報告疾患は2021年1月から12月までの報告を集計し、県内の動向をまとめた。新型コロナウイルス感染症を除く疾患は従来と同じくNESID(感染症サーベイランスシステム)から情報を収集し、新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については2022年4月時点での暫定値として、概要をまとめた。また、全数把握疾患の病原体については、2021年1月1日から12月31日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。

I 全数把握対象疾患の発生動向

1 一類、二類感染症及び三類感染症の発生動向

1) 一類、二類感染症の患者情報

2021年の埼玉県及び全国の一類、二類感染症の届出数を表1に示した。

一類感染症は、疑似症患者を含め埼玉県、全国ともに届出はなかった。

埼玉県に届出のあった二類感染症は、結核 834 人で、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)及び鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9)の各疾患の届出はなかった。

表1 一類・二類感染症の届出数 (2021年)

疾患名		埼玉県	全国*
一類	エボラ出血熱	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-
	痘そう	-	-
	南米出血熱	-	-
	ペスト	-	-
	マールブルグ病	-	-
	ラッサ熱	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-
	結核	834	16,299
	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-

*全国は診断週(1~52週)の集計値 (-0)

ア 結核

男性 470 人、女性 364 人の計 834 人の届出があり、前年の 891 人と比べ減少した。症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布し、70 歳代が最も多く、60 歳以上が 496 人で 59.5%を占めた。類型別では患者 592 人(感染症死亡者の死体 1 例を含む)、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症) 242 人の届出があり、患者は前年の 641 人より減少した(図 1)。

男性では、患者が 335 人(感染症死亡者の死体 1 例を含む)、無症状病原体保有者が 135 人で、女性では、患者が 257 人、無症状病原体保有者が 107 人であった。男女ともに疑似症患者の届出はなかった。年齢階級別では、男性は 60 歳以上が 62.6%を占め、70 歳代、80 歳代の順に多く、女性は 60 歳以上が 55.5%を占め、80 歳代、70 歳代の順に多かった。また、男性患者の 60 歳以上が占める割合は 65.4%、女性患者では 62.6%であった(表 2)。

表 2 結核 類型別の性年齢階級別届出数

年齢階級	男性				女性			総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	小計	
10歳未満	-	11	-	11	-	7	7	18
10歳代	4	2	-	6	6	2	8	14
20歳代	26	16	-	42	31	9	40	82
30歳代	9	3	-	12	22	11	33	45
40歳代	26	13	-	39	15	18	33	72
50歳代	51	15	-	66	22	19	41	107
60歳代	38	24	-	62	16	10	26	88
70歳代	78*	33	-	111	52	15	67	178
80歳代	80	16	-	96	61	12	73	169
90歳以上	23	2	-	25	32	4	36	61
合計	335	135	0	470	257	107	364	834
割合	40.2%	16.2%	0.0%	56.4%	30.8%	12.8%	43.6%	100.0%

* 感染症死亡者の死体1例を含む

(-0)

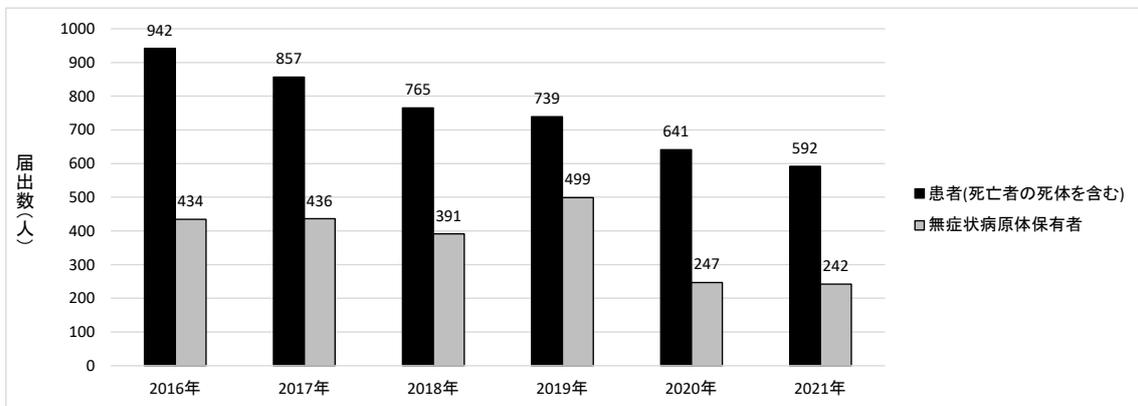


図 1 結核 類型別届出数 (2016~2021年)

2) 一類、二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法 (VNTR 法) 等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。2021年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は95株であった。これらの解析結果では、北京型は67株(70.5%)、非北京型は28株(29.5%)、型別不能は0株であった(表3-1)。さらに、北京型67株の系統推定では47株(70.1%)が祖先型、16株(23.9%)が新興型、4株が推定不能であった(表3-2)。

表 3-1 結核菌の北京型別

	北京型	非北京型	型別不能
株数	67	28	0
割合	70.5%	29.5%	0.0%

表 3-2 北京型の系統推定

	祖先型	新興型	推定不能
株数	47	16	4
割合	70.1%	23.9%	6.0%

3) 三類感染症の患者情報

2021年の埼玉県及び全国の三類感染症の届出数を表4に示した。

埼玉県に届出のあった三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症136人、腸チフス2人であった。

表4 三類感染症の届出数(2021年)

疾患名		埼玉県	全国*
三類	コレラ	-	-
	細菌性赤痢	-	7
	腸管出血性大腸菌感染症	136	3,243
	腸チフス	2	4
	パラチフス	-	-

*全国は診断週(1~52週)の集計値 (-:0)

ア 腸管出血性大腸菌感染症

男性62人、女性74人の計136人の届出があった。前年の95人より増加した。症例の年齢は1歳から90歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、10歳未満、30歳代の順に多かった。類型別では、患者82人、無症状病原体保有者54人で、患者が全体の60.3%を占め、前年の73.7%と比べ減少した(図2)。O血清型は、O26が61人と最も多く、次いで多かったのはO157が41人で、O157とO26の全体に占める割合はそれぞれ30.1%と44.9%であった。また、O157の届出数は過去5年で最も少なかった。年齢階級別では、O157の検出が最も多かったのは20歳代、O26の検出が最も多かったのは10歳未満であった(表5)。その他の血清型はO156が9人、O103、O111が各4人、O5が3人、O177が2人、O8、O21、O54、O76、O130、O145、O166、O170、O183が各1人、O91及びO115の同時検出が1人、その他に不明が2人であった。例年の流行期である6月~9月の届出数は58人で、過去5年の中で最も少なかった(図3)。

患者82人の症状は、水様性下痢66人、腹痛が50人、血便40人、発熱16人、嘔吐7人、急性腎不全1人で、溶血性尿毒症症候群(HUS)の発症者は認められなかった。

表5 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	32	17	15	20	12	2	29	1
10歳代	12	6	6	9	3	6	3	3
20歳代	37	17	20	26	11	15	11	11
30歳代	23	12	11	8	15	5	11	7
40歳代	7	2	5	3	4	2	1	4
50歳代	10	1	9	6	4	4	2	4
60歳代	5	4	1	2	3	2	2	1
70歳代	7	2	5	5	2	3	2	2
80歳以上	3	1	2	3	-	2	-	1
合計	136	62	74	82	54	41	61	34
割合	100.0%	45.6%	54.4%	60.3%	39.7%	30.1%	44.9%	25.0%

(-0)

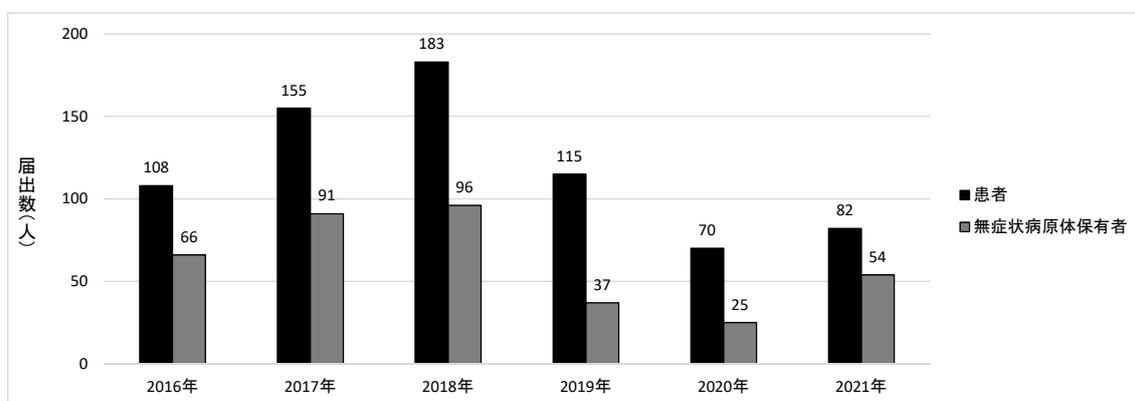


図2 腸管出血性大腸菌感染症 類型別届出数 (2016~2021年)

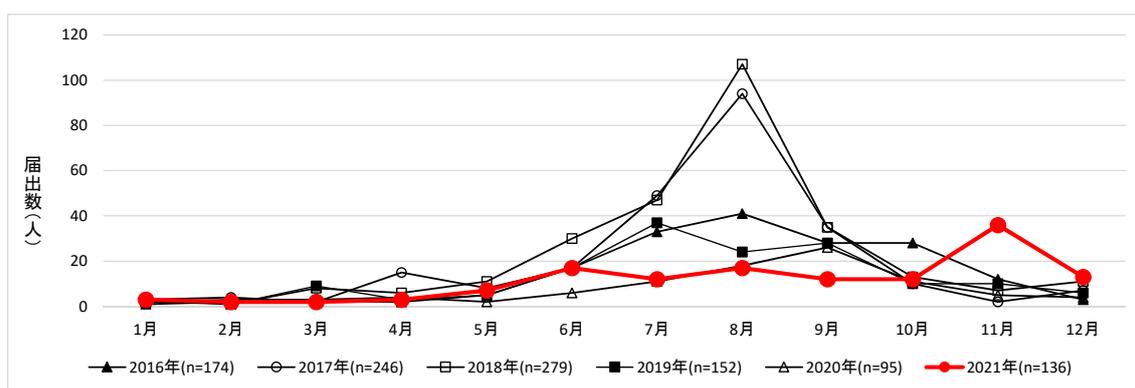


図3 腸管出血性大腸菌感染症 月別届出数 (2016~2021年)

イ 腸チフス

11月に男性40歳代1人、12月に男性10歳未満1人の計2人の届出があり、前年の1人を上回った。共に、類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は前者がインド、後者がバングラデシュであった。

4) 三類感染症の病原体検出状況

2021年に埼玉県内で分離された三類感染症細菌は、腸管出血性大腸菌 129 株、チフス菌 2 株の計 131 株で、コレラ菌、赤痢菌、パラチフス A 菌は分離されなかった。このうち国外感染例からの分離は、チフス菌 2 株であった。国内感染例からの分離は、腸管出血性大腸菌 129 株であった(表 6)。

表 6 三類感染症 病原体検出状況 (2021 年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性 大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	-	-	2	-	2
国内感染	-	-	129	-	-	129
合計	-	-	129	2	-	131

(-:0)

ア 腸管出血性大腸菌

県内で分離された腸管出血性大腸菌は 129 株であった。血清型別では、21 血清型が検出された。最も多く検出された血清型は O26:H11 で 54 株 (41.9%) であった。次いで O157:H7 で 35 株 (27.1%)、O156:H25 が 8 株 (6.2%)、O157:H-、O103:H2、O111:H- がそれぞれ 4 株ずつ、その他の血清型は 3 株以下であった。毒素型では、VT1 が 76 株 (58.9%)、VT1&2 が 35 株 (27.1%)、VT2 が 18 株 (14.0%) であった(表 7)。

表 7 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型 (2021 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	-	9	26	35
O157:H-	-	1	3	4
O26:H11	52	-	2	54
O26:H-	3	-	-	3
O156:H25	8	-	-	8
O156:H-	1	-	-	1
O103:H2	4	-	-	4
O111:H-	1	1	2	4
O5:H-	3	-	-	3
O177:H-	-	2	-	2
O91:H-	1	-	-	1
O115:H10	1	-	-	1
O145:H-	-	1	-	1
O183:H18	1	-	-	1
O21:H2	-	1	-	1
O54:H45	-	1	-	1
O166:H28	1	-	-	1
O170:H18	-	1	-	1
O8:H19	-	1	-	1
O130:H11	-	-	1	1
O76:H19	-	-	1	1
合計	76	18	35	129

(数値部分の -:0)

イ チフス菌

チフス菌は、10月に40歳代男性、12月に10歳未満の男性からそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。両者とも推定感染地域は国外で、前者がインド、後者はバングラデシュであった。ファージ型は前者がE9、後者がDVSであった。

2 四類感染症の発生動向

1) 四類感染症の患者情報

2021年の埼玉県及び全国の四類感染症の届出数を表8に示した。

表8 四類感染症の届出数（2021年）

疾患名		埼玉県	全国*
四類	E型肝炎	36	460
	ウエストナイル熱	-	-
	A型肝炎	2	71
	エキノコックス症	-	35
	黄熱	-	-
	オウム病	-	9
	オムスク出血熱	-	-
	回帰熱	-	10
	キャサヌル森林病	-	-
	Q熱	-	1
	狂犬病	-	-
	コクシジオイデス症	-	-
	サル痘	-	-
	ジカウイルス感染症	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	-	110
	腎症候性出血熱	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-
	炭疽	-	-
	チクングニア熱	-	-
	つつが虫病	3	544
	デング熱	-	8
	東部ウマ脳炎	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-
	日本紅斑熱	-	490
	日本脳炎	-	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-
	Bウイルス病	-	-
	鼻疽	-	-
	ブルセラ症	-	1
	ベネズエラウマ脳炎	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-
	発しんチフス	-	-
	ポツリヌス症	-	5
	マラリア	2	30
	野兔病	-	-
	ライム病	-	23
	リッサウイルス感染症	-	-
	リフトバレー熱	-	-
類鼻疽	-	-	
レジオネラ症	99	2,133	
レプトスピラ症	1	34	
ロッキー山紅斑熱	-	-	

*全国は診断週(1~52週)の集計値 (-:0)

埼玉県に届出のあった四類感染症は、E型肝炎 36 人、A型肝炎 2 人、つつが虫病 3 人、マラリア 2 人、レジオネラ症 99 人、レプトスピラ症 1 人の計 143 人であった。

ア E型肝炎

男性 26 人、女性 10 人の計 36 人の届出があり、前年の 28 人より増加した。症例の年齢は 20 歳代から 80 歳代に分布し、50 歳代、40 歳代、60 歳代の順に多かった(表 9)。類型は患者が 29 人、無症状病原体保有者が 7 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 6 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 8 人、血清 IgA 抗体の検出のみが 21 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 1 人であった。推定感染経路は経口感染 16 人、不明 20 人で、推定感染地域は国内 28 人、不明 8 人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の内 6 人は献血により探知された症例であった。

表 9 E型肝炎 年齢階級別届出数

年齢階級	総数	男性	女性
10歳未満	-	-	-
10歳代	-	-	-
20歳代	2	1	1
30歳代	4	3	1
40歳代	8	5	3
50歳代	10	8	2
60歳代	7	6	1
70歳代	2	1	1
80歳以上	3	2	1
合計	36	26	10
割合	100.0%	72.2%	27.8%

(-0)

イ A型肝炎

9月に男性 70 歳代 1 人、10月に女性 60 歳代 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 4 人を下回った。共に類型は患者で、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。推定感染経路は、共に不明で、推定感染地域は前者が国内、後者が不明であった。また、ワクチン接種歴は、共に不明であった。

ウ つつが虫病

男性 2 人、女性 1 人の計 3 人の届出があり、前年の 2 人を上回った。症例の年齢は 70 歳代及び 80 歳代で、診断方法は全て間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清 IgM 抗体の検出であった。推定感染地域は国内が 2 人(県内 1 人、県外 1 人)、不明が 1 人であった(表 10)。

表 10 つつが虫病(n=3)の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法	推定感染地域
11月	男	70歳代	間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法によるIGM抗体の検出	国内
12月	女	80歳代	間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法によるIGM抗体の検出	国内
12月	男	80歳代	間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法によるIGM抗体の検出	不明

エ マラリア

前年発生が無かったマラリアは、11月に男性50歳代1人、12月に女性30歳代1人の計2人の届出があった。共に、病型は熱帯熱で、診断方法は、血液検体の鏡検による病原体の検出であった。推定感染地域は前者がナイジェリア、後者がコートジボワールであった。

オ レジオネラ症

男性84人、女性15人の計99人の届出があり、前年の107人より減少した。症例の年齢は10歳代から90歳代に分布し、60歳以上が全体の76.8%を占めた(表11)。類型は全て患者で、患者の病型別では肺炎型96人、ポンティアック熱型3人であった。

年間を通して届出はあったが、月別の届出数は7月の21人、10月の14人、11月の11人、6月及び9月の各10人の順に多かった(図4)。

診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が98人、LAMP法による病原遺伝子の検出が7人、分離・同定による病原体の検出が3人、蛍光抗体法による病原体抗原の検出が1人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内83人、不明16人で、国内感染例のうち県内は64人であった。

表 11 レジオネラ症 年齢階級別届出数

年齢階級	男性	女性	総数	割合
10歳未満	-	-	-	0.0%
10歳代	-	1	1	1.0%
20歳代	-	1	1	1.0%
30歳代	1	-	1	1.0%
40歳代	7	-	7	7.1%
50歳代	13	-	13	13.1%
60歳代	26	3	29	29.3%
70歳代	23	5	28	28.3%
80歳以上	14	5	19	19.2%
合計	84	15	99	100.0%
割合	84.8%	15.2%	100.0%	

(-:0)

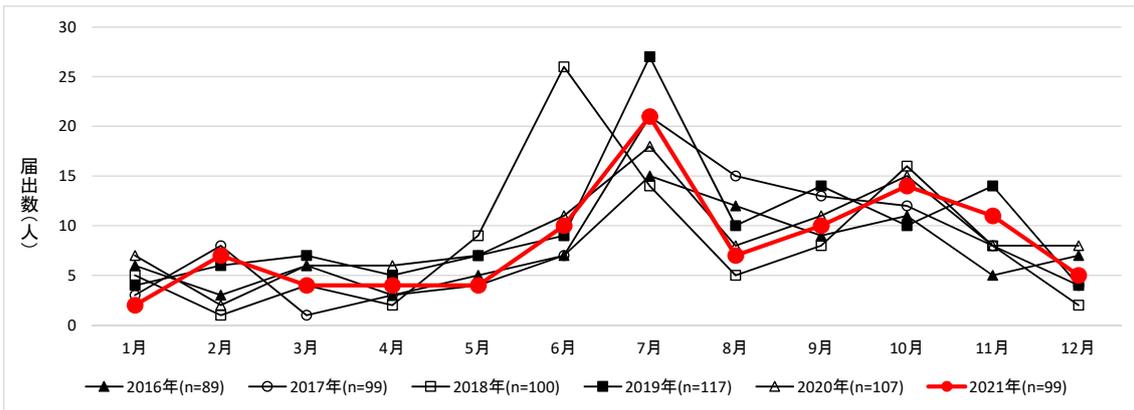


図 4 レジオネラ症 月別届出数 (2016~2021年)

カ レプトスピラ症

前年発生のなかったレプトスピラ症は、12月に男性60歳代1人の届出があった。推定感染経路はネズミによる咬傷で、推定感染地域は国内(県内)であった。

2) 四類感染症の病原体検出状況

ア E型肝炎

11例12検体が採取され、6例6検体からE型肝炎ウイルスが検出された(表12)。遺伝子型は、G3が4例、型別未確定が2例であった。ウイルスが検出された6例に海外渡航歴はなかった。

イ A型肝炎

1検体が採取されたが、A型肝炎ウイルスは検出されなかった(表12)。

ウ 重症熱性血小板減少症候群

4例7検体が採取されたが、SFTSウイルスは検出されなかった(表12)。

表 12 四類全数把握対象疾患のウイルス検出状況 (2021年)

臨床診断名	ウイルス	採取月 検体合計数												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
E型肝炎	検体数		3		1	2	4		1	2		5	2	20
	E型肝炎		3		1	2	3			1			2	12
A型肝炎	検体数									1				1
	A型肝炎													
重症熱性血小板減少症候群	検体数						1		1			5		7
	SFTS													

エ レジオネラ症

肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は3株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、3件であった。

3 五類感染症の発生動向

1) 五類感染症の患者情報

2021年の埼玉県及び全国の五類感染症の届出数を表13に示した。

埼玉県に届出のあった五類感染症は、アメーバ赤痢19人、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)10人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症95人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)1人、急性脳炎20人、クロイツフェルト・ヤコブ病4人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症30人、後天性免疫不全症候群28人、ジアルジア症4人、侵襲性インフルエンザ菌感染症6人、侵襲性肺炎球菌感染症57人、水痘(入院例)15人、梅毒287人、播種性クリプトコックス症10人、破傷風3人、百日咳43人、風しん1人、麻しん1人の計634人であった。

表13 五類感染症の届出数(2021年)

疾患名		埼玉県	全国*
五類	アメーバ赤痢	19	537
	ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	10	203
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	95	2,066
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	1	25
	急性脳炎	20	338
	クリプトスポリジウム症	-	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	179
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	622
	後天性免疫不全症候群	28	1,053
	ジアルジア症	4	32
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	194
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	57	1,405
	水痘(入院例)	15	301
	先天性風しん症候群	-	1
	梅毒	287	7,978
	播種性クリプトコックス症	10	163
	破傷風	3	93
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	124
	百日咳	43	707
風しん	1	12	
麻しん	1	6	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	6	

*全国は診断週(1~52週)の集計値

(-:0)

ア アメーバ赤痢

男性 18 人、女性 1 人の計 19 人の届出があり、前年の 31 人より大きく減少した。症例の年齢は 40 歳代から 70 歳代に分布し、60 歳代の 7 人が最も多かった。病型は、全て腸管アメーバ症であった。診断方法は、鏡検による病原体の検出が 18 人で、PCR 法による病原体遺伝子の検出が 1 人であった。推定感染経路は経口感染が 1 人、性的接触が 5 人、不明 13 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び同性間性的接触が各 2 人、異性同性不明が 1 人であった(表 14)。推定感染地域は、国内 8 人、国外 2 人、不明 9 人であった。

表 14 アメーバ赤痢(n=19)の届出内容

性別	年齢	診断方法	推定感染経路	推定感染地域
男	40歳代	鏡検による病原体の検出	性的接触(異性同性不明)	国内
男	40歳代	鏡検による病原体の検出	不明	国内
男	40歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	40歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	50歳代	鏡検による病原体の検出	経口感染	国内
男	50歳代	鏡検による病原体の検出	不明	国内
男	50歳代	鏡検による病原体の検出	不明	国外
男	50歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	50歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	60歳代	鏡検による病原体の検出	性的接触(異性間)	国内
男	60歳代	鏡検による病原体の検出	性的接触(異性間)	国外
女	60歳代	鏡検による病原体の検出	不明	国内
男	60歳代	PCR法による病原体遺伝子の検出	不明	不明
男	60歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	60歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	60歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明
男	70歳代	鏡検による病原体の検出	性的接触(同性間)	国内
男	70歳代	鏡検による病原体の検出	性的接触(同性間)	国内
男	70歳代	鏡検による病原体の検出	不明	不明

イ ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

B型肝炎 5 人、C型肝炎 1 人、その他のウイルス性肝炎 4 人の計 10 人の届出があり、前年の 6 人を上回った(表 15)。

B型肝炎は 10 歳代から 30 歳代の男性 5 人の届出があった。いずれも、診断方法は血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。ウイルスの遺伝子型は A 型が 2 人、B 型が 1 人、C 型が 1 人であった。推定感染経路は全て性的接触で、性的接触の内訳は異性間性的接触が 3 人、同性間性的接触が 1 人、異性同性不明が 1 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。

C型肝炎は 12 月に男性 40 歳代 1 人の届出があった。診断方法は HCV 抗体陰性、かつ HCV RNA 又は HCV コア抗原の検出であった。推定感染経路は針等の鋭利なものとの刺入であり、推定感染地域は国内であった。

その他のウイルス性肝炎は、エプスタイン・バーン・ウイルス(EBV)とサイトメガロウイルス(CMV)による肝炎が 3 月に女性 20 歳代 1 人、EBV による肝炎が 4 月に女性 20 歳代、8 月に女性 50 歳代、9 月に女性 10 歳代の各 1 人の計 4 人の届出があった。推定感染経路は性的接触及び不明が各 2 人で、推定感染地域はいずれも国内であった。

表 15 ウイルス性肝炎 (n=10) の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	10歳代	B型	性的接触(異性間)	国内
2月	男	30歳代	B型	性的接触(異性間)	国内
3月	女	20歳代	その他(EBV, CMV)	性的接触(異性同性不明)	国内
4月	男	20歳代	B型	性的接触(異性間)	国内
4月	女	20歳代	その他(EBV)	性的接触(異性同性不明)	国内
8月	女	50歳代	その他(EBV)	不明	国内
9月	女	10歳代	その他(EBV)	不明	国内
10月	男	30歳代	B型	性的接触(異性同性不明)	国内
11月	男	20歳代	B型	性的接触(同性間)	国内
12月	男	40歳代	C型	針等の鋭利なものの刺入	国内

ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男性 63 人、女性 32 人の計 95 人の届出があり、前年の 81 人より増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 72 人で全体の 75.8%を占めた。症状は菌血症・敗血症が 28 人、尿路感染症が 26 人、肺炎が 22 人、胆嚢炎・胆管炎が 20 人、腸炎・腹膜炎が 6 人（重複例有り）であった。検査検体で多かったのは、血液の 26 検体、尿の 24 検体、喀痰の 20 検体であった（重複例有り）（表 16）。

分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 37 株、*Enterobacter cloacae* が 26 株、*K. pneumoniae* が 9 株、*Escherichia coli* が 5 株、*E. bugandensis* が 4 株、*Citrobacter freundii* 及び *K. oxytoca* が各 3 株、*Providencia stuartii* 及び *Serratia marcescens* が各 2 株、*C. braakii*、*E. asburiae*、*S. liquefaciens* が各 1 株で、この他に *Klebsiella* sp. が 1 株報告された。

表 16 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別の届出数

年齢階級	症例数	性別		症状(重複有り)							検体(重複有り)					
		男性	女性	菌血症・敗血症	胆嚢炎・胆管炎	腸炎・腹膜炎	髄膜炎	肺炎	尿路感染症	その他	血液	腹水	喀痰	膿	尿	その他
10歳未満	6	6	-	1	-	2	-	-	3	-	1	2	-	-	3	-
10歳代	2	-	2	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	1
20歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	4	1	3	-	-	-	-	1	2	1	-	-	1	-	2	2
40歳代	4	2	2	1	2	-	-	-	1	1	1	-	-	1	1	1
50歳代	7	6	1	3	1	-	-	1	1	1	3	-	1	-	1	2
60歳代	9	6	3	5	2	1	-	-	2	2	5	-	-	1	1	3
70歳代	27	19	8	12	8	2	-	7	5	3	10	-	7	5	4	2
80歳以上	36	23	13	6	7	1	-	13	11	5	6	-	11	1	10	9
合計	95	63	32	28	20	6	0	22	26	14	26	2	20	8	24	20
割合	100%	66.3%	33.7%	29.5%	21.1%	6.3%	0.0%	23.2%	27.4%	14.7%	27.4%	2.1%	21.1%	8.4%	25.3%	21.1%

(-0)

エ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）

10 月に男性 5-9 歳 1 人の届出があり、前年の 2 人を下回った。病原体は不明で、ポリオワクチン接種歴は有りであった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は国内であった。

オ 急性脳炎

男性 5 人、女性 15 人の計 20 人の届出があり、前年の 23 人を下回った。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、階級別では 1-4 歳の 10 人が最も多かった(表 17)。

病原体が特定された症例は、10 月及び 12 月の 2 人(ヘルペスウイルス)、1 月の 1 人(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)、7 月の 1 人(パレコウイルス)で、残りの 16 人の病原体は特定されなかった。推定感染地域は、国内が 18 人(県内 16 人)、不明 2 人であった。

表 17 急性脳炎(n=20)の届出内容

年齢	性別	診断月	病型	推定感染地域
0歳	女	5月	病原体不明	国内(埼玉県)
0歳	女	7月	パレコ	国内(埼玉県)
0歳	男	10月	病原体不明	不明
1-4歳	女	1月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	男	4月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	5月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	6月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	6月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	7月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	7月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	8月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	12月	病原体不明	国内(埼玉県)
1-4歳	女	12月	病原体不明	国内(埼玉県)
5-9歳	女	11月	病原体不明	国内(埼玉県)
5-9歳	男	12月	病原体不明	国内
10-14歳	女	1月	MRSA	国内(埼玉県)
10-14歳	女	11月	病原体不明	国内(埼玉県)
10-14歳	男	12月	病原体不明	国内(埼玉県)
60歳代	女	10月	ヘルペス	不明
80歳代	男	12月	ヘルペス	国内

カ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

男性 1 人、女性 3 人の計 4 人の届出があり、前年の 2 人を上回った。症例の年齢は 60 歳代 1 人、70 歳代 2 人、80 歳代 1 人で、病型は古典型 CJD 3 人、家族性 CJD 1 人で、診断の確実度は、ほぼ確実が 3 人、疑いが 1 人であった(表 18)。

表 18 クロイツフェルト・ヤコブ病(n=4)の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	診断の確実度
1月	男	60歳代	古典型CJD	疑い
10月	女	70歳代	古典型CJD	ほぼ確実
10月	女	70歳代	古典型CJD	ほぼ確実
11月	女	80歳代	家族性CJD	ほぼ確実

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男性 17 人、女性 13 人の計 30 人の届出があり、前年と同数であった。症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 22 人で全体の 73.3%を占めた。届出は 7 月及び 8 月を除く各月にあり、1 月及び 12 月の 5 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 11 人、G 群が 16 人、B 群が 2 人、不明が 1 人であった(表 19)。推定される感染経路は創傷感染が 14 人、その他が 3 人、不明が 13 人で、推定感染地域は国内が 27 人(全て県内)、不明が 3 人であった。

表 19 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年齢階級別届出数と分離株の血清群

年齢階級	総数	男性	女性	血清群			
				A群	B群	G群	不明
10歳未満	-	-	-	-	-	-	-
10歳代	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	1	-	1	1	-	-	-
40歳代	3	2	1	2	-	1	-
50歳代	4	3	1	3	-	1	-
60歳代	4	2	2	2	2	-	-
70歳代	10	7	3	2	-	7	1
80歳以上	8	3	5	1	-	7	-
合計	30	17	13	11	2	16	1
割合	100.0%	56.7%	43.3%	36.7%	6.7%	53.3%	3.3%

(-0)

ク 後天性免疫不全症候群

男性 27 人、女性 1 人の計 28 人の届出があり、前年の 29 人を下回った。男性の症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し、20 歳代から 40 歳代が 23 人で、男性全体の 85.2%を占めた。病型は A I D S が 11 人で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 6 人、サイトメガロウイルス感染症(生後 1 カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外)が 2 人、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)、クリプトコッカス症(肺以外)、H I V 脳症(認知症又は亜急性脳炎)、H I V 消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)、進行性多巣性白質脳症及び非ホジキンリンパ腫(L S G 分類により ①大細胞型、免疫芽球型 ②Burkitt 型)が各 1 人であった(重複例有り)。また、その他(指標疾患を認めない患者)が 1 人、無症状病原体保有者が 15 人であった。推定される感染経路では性的接触が 22 人、不明が 5 人で、性的接触の内訳は同性間性的接触が 17 人、異性間性的接触が 3 人、異性・同性間性的接触及び異性・同性不明性的接触が各 1 人であった。女性の症例は、30 歳代であった。病型は A I D S で、その指標疾患は活動性結核(肺結核又は肺外結核)であった。推定感染経路は異性間性的接触であった(表 20)。

また、病型別の年齢分布では、A I D S は 30 歳代から 70 歳代に分布し、30 歳代から 40 歳代が 10 人で A I D S 患者全体の 83.3%を占めた。無症状病原体保有

者は20歳代から50歳代に分布し、20歳代から30歳代が10人で無症状病原体保有者全体の66.7%を占めた。(表21)。

表20 後天性免疫不全症候群 届出数

		男性 n=27		女性 n=1		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	20歳代	6	22.2%	-	0.0%	
	30歳代	8	29.6%	1	100.0%	
	40歳代	9	33.3%	-	0.0%	
	50歳代	3	11.1%	-	0.0%	
	60歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	70歳代	1	3.7%	-	0.0%	
	80歳以上	-	0.0%	-	0.0%	
病型	AIDS	11	40.7%	1	100.0%	
	その他	1	3.7%	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	15	55.6%	-	0.0%	
推定感染地域	日本国内	17	63.0%	-	0.0%	
	その他(国外)	2	7.4%	1	100.0%	
	不明	8	29.6%	-	0.0%	
国籍	日本	22	81.5%	-	0.0%	
	その他	3	11.1%	1	100.0%	
	不明	2	7.4%	-	0.0%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	3	11.1%	1	100.0%
		同性間性的接触	17	63.0%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	1	3.7%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	1	3.7%	-	0.0%
		不明	5	18.5%	-	0.0%

表21 後天性免疫不全症候群 病型別の年齢階級別届出数

年齢階級	症例数	AIDS	その他	無症状病原体保有者
10歳未満	-	-	-	-
10歳代	-	-	-	-
20歳代	6	-	1	5
30歳代	9	4	-	5
40歳代	9	6	-	3
50歳代	3	1	-	2
60歳代	-	-	-	-
70歳代	1	1	-	-
80歳以上	-	-	-	-
合計	28	12	1	15
割合	100.0%	42.9%	3.6%	53.6%

(-:0)

ケ ジアルジア症

前年発生しなかったジアルジア症は、男性 4 人の届け出があった。症例の年齢は 30 歳代から 70 歳代に分布した。いずれも、診断方法は鏡検による病原体の検出であった。推定感染経路は同性間性的接触及び経口感染が各 1 人、不明が 2 人で、推定感染地域は国内が 2 人、国外が 1 人、不明が 1 人であった（表 22）。

表 22 ジアルジア症 (n=4) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法/検体	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	30歳代	鏡検による病原体の検出/便	同性間性的接触	国内
5月	男	50歳代	鏡検による病原体の検出/便	不明	国内
6月	男	40歳代	鏡検による病原体の検出/便	経口感染	国外
10月	男	70歳代	鏡検による病原体の検出/腭液	不明	不明

コ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男性 4 人、女性 2 人の計 6 人の届出があり、前年の 12 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、1-4 歳で 3 人、0 歳で 1 人、40 歳代以上で 2 人の報告があった。診断方法は、全て分離・同定による病原体の検出で、検体は血液が 5 人、髄液が 1 人であった。ヒブワクチン接種歴は、0 歳及び 1-4 歳の 4 人は有りで、40 歳代以上では無し及び不明が各 1 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が 2 人、不明が 2 人で、残りの 2 人は胆管炎からの波及、口腔内の外傷が疑われていた。推定感染地域は国内 5 人（県内 4 人）、不明が 1 人であった（表 23）。

表 23 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (n=6) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法 / 検体	推定感染経路	ワクチンの接種歴
4月	男	1-4歳	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	有
5月	男	1-4歳	分離・同定による病原体の検出/血液	その他	有
6月	女	40歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	その他	無
7月	男	1-4歳	分離・同定による病原体の検出/血液	飛沫・飛沫核感染	有
7月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	不明
11月	女	0歳	分離・同定による病原体の検出/髄液	飛沫・飛沫核感染	有

サ 侵襲性肺炎球菌感染症

男性 41 人、女性 16 人の計 57 人の届出があり、前年の 63 人を下回った。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 34 人で全体の 59.6%を占めた。20 歳未満では 1-4 歳が 9 人、0 歳が 3 人、5-9 歳が 1 人の報告があった。診断方法は、分離同定による病原体の検出のみが 53 人、分離同定による病原体の検出及びイムノクロマト法による病原体抗原の検出が 3 人、分離同定による病原体の検出及び PCR 法による病原体遺伝子の検出が 1 人であった。症状は菌血症が 51 人 (89.5%)、発熱が 49 人 (86.0%)、肺炎が 21 人 (36.8%) に認められた。ワクチン接種歴は、20 歳未満では、0 歳の不明 1 人を除き、いずれも有りで、20 歳以上では、有りが 60 歳以上の 5 人、無しが 7 人、不明が 32 人であった（表

24)。推定感染地域は国内が 53 人(県内 45 人)、不明が 4 人であった。

表 24 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別届出数とワクチン接種歴

年齢階級	症例数	男性	女性	ワクチン接種歴		
				有り	無し	不明
0歳	3	3	-	2	-	1
1-4歳	9	5	4	9	-	-
5-9歳	1	1	-	1	-	-
10-14歳	-	-	-	-	-	-
15-19歳	-	-	-	-	-	-
20-29歳	-	-	-	-	-	-
30-39歳	2	1	1	-	-	2
40-49歳	3	3	-	-	2	1
50-59歳	5	4	1	-	1	4
60-69歳	10	6	4	1	2	7
70歳以上	24	18	6	4	2	18
合計	57	41	16	17	7	33
割合	100.0%	71.9%	28.1%	29.8%	12.3%	57.9%

(-0)

シ 水痘(入院例)

男性 8 人、女性 7 人の計 15 人の届出があり、前年の 13 人を上回った。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 9 例、臨床診断例が 6 例で、検査診断例の診断方法は、イムノクロマト法による抗原の検出及び蛍光抗体法による抗原の検出が各 3 人、分離・同定による病原体の検出が 2 人、血清 IgM 抗体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が各 1 人(重複例有り)であった。ワクチン接種歴は無しが 2 人、不明が 13 人であった(表 25)。感染経路は、家族等からの感染、入院中の院内感染及び不明が各 5 人で、推定感染地域は国内が 13 人(県内 10 人)、不明が 2 人であった。

表 25 水痘(入院例)(n=15)の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	診断方法	ワクチン接種歴
1月	男	50歳代	検査診断例	分離・同定による病原体の検出	不明
3月	女	40歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
3月	男	10-14歳	検査診断例	イムノクロマト法による抗原の検出	不明
4月	男	30歳代	検査診断例	イムノクロマト法による抗原の検出	無
5月	女	30歳代	検査診断例	血清IGM抗体の検出	不明
5月	男	30歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
5月	女	70歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
7月	女	80歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
8月	女	70歳代	検査診断例	検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出	不明
8月	男	30歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
9月	男	50歳代	検査診断例	蛍光抗体法による抗原の検出	不明
9月	男	60歳代	検査診断例	蛍光抗体法による抗原の検出	不明
10月	男	60歳代	検査診断例	イムノクロマト法による抗原の検出	不明
10月	女	0歳	検査診断例	分離・同定による病原体の検出	無
11月	女	90歳代	臨床診断例	蛍光抗体法による抗原の検出	不明

ス 梅毒

男性 219 人、女性 68 人の計 287 人の届出があり、前年の 168 人より増加し、届出数は過去 5 年で最大となった(図 5)。性比(男/女)は 3.22 で、前年の 2.11 より高くなった。

症例の年齢は、男性では 10 歳代から 80 歳代に分布し、40 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 77.6%を占めた。女性では 0 歳代から 90 歳代に分布し、20 歳代が最も多く 10 歳代から 40 歳代が 83.8%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I 期)が 118 人、早期顕症梅毒(II 期)が 62 人、晩期顕症梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 35 人で、女性では早期顕症梅毒(I 期)が 11 人、早期顕症梅毒(II 期)が 27 人、晩期顕症梅毒が 1 人、先天梅毒が 2 人、無症状病原体保有者が 27 人であった。また、先天梅毒は 2 人で、前年の 5 人を下回った。推定感染経路は、男性では性行為感染が 185 人、不明が 34 人、女性では性行為感染が 49 人、母子感染が 2 人、不明が 17 人であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男性が 129 人、女性が 42 人であった(表 26)。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 39.7%、従事歴が女性の 11.8%に認められた。H I V感染症との合併は男性 10 人、妊娠は女性 5 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 219 人、不明が 68 人であった。

表 26 梅毒 届出数

		男性 n=219		女性 n=68		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	2	2.9%	
	10歳代	2	0.9%	12	17.6%	
	20歳代	55	25.1%	27	39.7%	
	30歳代	52	23.7%	10	14.7%	
	40歳代	63	28.8%	8	11.8%	
	50歳代	33	15.1%	3	4.4%	
	60歳代	9	4.1%	1	1.5%	
	70歳代	4	1.8%	3	4.4%	
	80歳以上	1	0.5%	2	2.9%	
病型	早期顕症梅毒(I 期)	118	53.9%	11	16.2%	
	早期顕症梅毒(II 期)	62	28.3%	27	39.7%	
	晩期顕症梅毒	4	1.8%	1	1.5%	
	先天梅毒	-	0.0%	2	2.9%	
	無症状病原体保有者	35	16.0%	27	39.7%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	129	58.9%	42	61.8%
		同性間性的接触	18	8.2%	1	1.5%
		異性・同性間性的接触	2	0.9%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	36	16.4%	6	8.8%
	性行為以外	母子感染	-	0.0%	2	2.9%
	不明		34	15.5%	17	25.0%

(-:0)

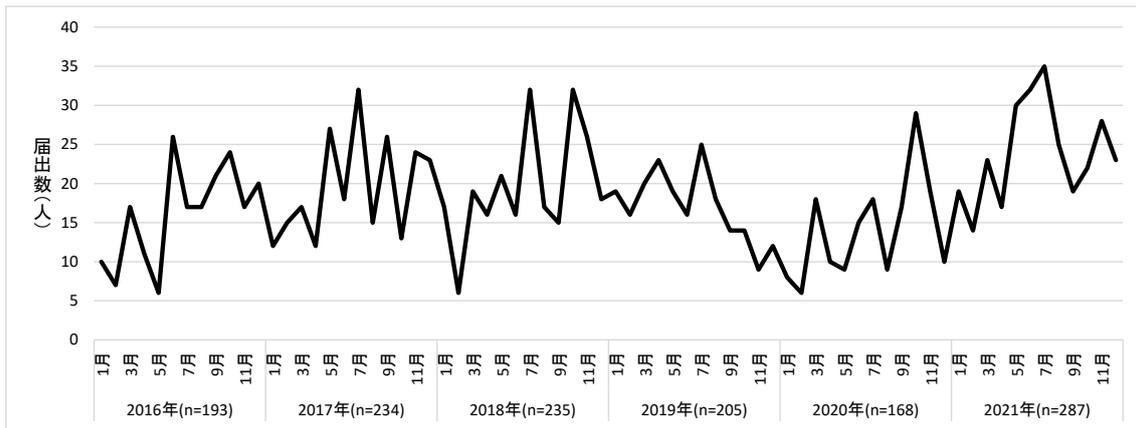


図5 梅毒 届出数の推移 (2016年1月～2021年12月)

セ 播種性クリプトコックス症

男性6人、女性4人の計10人の届出があり、前年の10人と同数であった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が9人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が2人、病理組織学的診断が1人であった(重複例有り)。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が9人、不明が1人であった(表27)。推定感染地域は国内が7人(県内6人)、不明3人であった。

表27 播種性クリプトコックス症 (n=10) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法 / 検体	感染原因
1月	女	80歳代	病理組織学的診断 / 髄液	不明
2月	男	40歳代	分離・同定による病原体の検出 / 髄液 ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出 / 髄液	免疫不全
4月	男	70歳代	分離・同定による病原体の検出 / 血液、髄液	免疫不全
5月	男	60歳代	分離・同定による病原体の検出 / 髄液	免疫不全
10月	女	80歳代	分離・同定による病原体の検出 / 血液	免疫不全
10月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出 / 血液	免疫不全
11月	男	50歳代	分離・同定による病原体の検出 / 髄液	免疫不全
11月	女	80歳代	分離・同定による病原体の検出 / 髄液	免疫不全
12月	女	70歳代	分離・同定による病原体の検出 / 髄液 ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出 / 血液	免疫不全
12月	男	70歳代	分離・同定による病原体の検出 / 血液	免疫不全

ソ 破傷風

男性3人の届出があり、前年の5人を下回った。症例の年齢は50歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内(全て県内)であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有り無し及び不明が各1人であった(表28)。

表28 破傷風 (n=3) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法	推定感染経路 / 部位	推定感染地域	ワクチンの接種歴
1月	男	80歳代	臨床決定	創傷感染(右母指)	国内	無
6月	男	80歳代	臨床決定	創傷感染(四肢)	国内	不明
11月	男	50歳代	臨床決定	創傷感染(不明)	国内	有

タ 百日咳

男性 15 人、女性 28 人の計 43 人の届出があり、前年の 106 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、階級別では 1-4 歳で 15 人、20 歳代及び 30 歳代で各 6 人の順に多かった。診断方法は単一血清で抗体価の高値が 31 人、病原体遺伝子の検出が 6 人、イムノクロマト法による病原体抗原の検出及び分離・同定による病原体の検出が各 3 人であった。ワクチン接種歴は有りが 23 人、無しが 1 人、不明が 19 人で、接種歴有りの者は全員 4 回接種であった。また、0 歳の症例は接種歴がなかった(表 29)。推定感染地域は国内が 35 人(県内 32 人)、不明が 8 人であった。

表 29 百日咳 年齢階級別届出数とワクチン接種歴

年齢階級	症例数	男性	女性	ワクチン接種歴		
				有り	無し	不明
0歳	1	1	-	-	1	-
1-4歳	15	6	9	15	-	-
5-9歳	4	4	-	4	-	-
10-14歳	3	1	2	3	-	-
15-19歳	2	-	2	-	-	2
20-29歳	6	-	6	1	-	5
30-39歳	6	2	4	-	-	6
40-49歳	4	-	4	-	-	4
50-59歳	-	-	-	-	-	-
60-69歳	-	-	-	-	-	-
70-79歳	1	-	1	-	-	1
80歳以上	1	1	-	-	-	1
合計	43	15	28	23	1	19
割合	100.0%	34.9%	65.1%	53.5%	2.3%	44.2%

(-0)

チ 風しん

4 月に男性 5-9 歳 1 人の届出があり、前年の 3 人を下回った。病型は検査診断例で、診断方法は、血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は 2 回であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内(県内)であった。

ツ 麻しん

前年発生がなかった麻しんは 7 月に男性 20 歳代 1 人の届出があった。病型は修飾麻しん(検査診断例)で、診断方法は、血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は 2 回であった。推定感染経路及び推定感染地域は不明であった。

2) 五類感染症の病原体検出状況

ア カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

10 菌種、83 株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) が分離された (表 30)。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes* で 32 株 (38.6%)、次いで *Enterobacter cloacae* complex が 24 株 (28.9%)、*Klebsiella pneumoniae* が 8 株、*Escherichia coli*、*Citrobacter freundii*、*Enterobacter* sp. がそれぞれ 4 株、*Klebsiella oxytoca*、*Providencia stuartii*、*Serratia marcescens* がそれぞれ 2 株、*Serratia* sp. が 1 株の順であった。

Klebsiella 属は、42 株 (*K. aerogenes* 32 株、*K. pneumoniae* 8 株、*K. oxytoca* 2 株) で全体の 50.6%を占めていた。

表 30 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 分離状況 (2021 年)

菌種名	株数	耐性遺伝子	株数
<i>Klebsiella aerogenes</i>	32 (38.6%)	不検出	32
		SHV型	1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	8 (9.6%)	SHV型、DHA型	3
		SHV型、TEM型	1
		SHV型、CTX-M-1 group	1
		TEM型、CTX-M-1 group	1
		SHV型、TEM型、CTX-M-1 group	1
<i>Klebsiella oxytoca</i>	2 (2.4%)	IMP型	2
		不検出	6
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	24 (28.9%)	IMP型	5
		EBC型	11
		IMP型、EBC型	1
		TEM型、CTX-M-1 group	1
		不検出	1
<i>Enterobacter</i> sp.	4 (4.8%)	不検出	2
		EBC型	2
<i>Escherichia coli</i>	4 (4.8%)	不検出	1
		CTX-M-1 group	1
		NDM型、CTX-M-1 group	1
<i>Citrobacter freundii</i>	4 (4.8%)	TEM型、CTX-M-9 group	1
		不検出	2
		DHA型	1
<i>Providencia stuartii</i>	2 (2.4%)	DHA型、CIT型、NDM型	1
		不検出	2
<i>Serratia marcescens</i>	2 (2.4%)	不検出	2
<i>Serratia</i> sp.	1 (1.2%)	不検出	1
合計	83		83

薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子（NDM 型、KPC 型、IMP 型、VIM 型、GES 型、OXA-48 型）6 種、基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ（ESBL）遺伝子（TEM 型、SHV 型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group）5 種、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子（ACC 型、CIT 型、DHA 型、EBC 型、FOX 型、MOX 型）6 種の計 17 種類について検査を実施した。

カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌（CPE）は、10 株（12.0%）であった。このうち IMP 型保有株は 8 株で CPE の 80.0% を占めていた。このほか NDM 型が 2 株分離された。CPE の菌種は、*K. oxytoca*、*E. cloacae* complex、*C. freundii*、*E. coli* の 4 菌種であった。ESBL 遺伝子保有株は 12 株（14.5%）、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子保有株は 19 株（22.9%）であった。

イ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）

1 例 6 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった（表 31）。

表 31 五類全数把握対象疾患のウイルス検出状況（2021 年）

臨床診断名	ウイルス	採取月 検体合計数												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
急性弛緩性麻痺	検体数										6			6
	エンテロ D68													
急性脳炎 (四類以外)	検体数	10	12	3	5	9		6	2	7	1	11	8	74
	パレコ								2	2				4
	ライノ				2	1								3
	ヒトヘルペス 6	1									1		1	3
	ヒトヘルペス 7	1										2		3
ムンプス												1		1
風しん	検体数			3			3							6
先天性風しん 症候群	風しん													
	検体数							3	2					5
麻しん	検体数	3	3			3	2	4		3	3			21
	麻しん													

ウ 急性脳炎

25 例 74 検体が採取され、10 例 14 検体からウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 6 及びヒトヘルペスウイルス 7 がそれぞれ 3 例 3 件、パレコウイルスが 2 例 4 件、ライノウイルスが 2 例 3 件、ムンプスウイルス（ワクチン株）が 1 件であった。また、複数の検体が採取された症例のうち 1 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された（表 31）。

エ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌は 13 株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 5 株、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) 8 株であった（表 32）。

S. pyogenes は、3 月、6 月、7 月、9 月、11 月に分離され、emm 型は、emm81.0 が 2 株、emm1.0、emm9.0、emm128.7 がそれぞれ 1 株分離された。T 型別では、T1 型、T9 型、T12 型がそれぞれ 1 株、T 型別不能が 2 株であった。

SDSE の emm 型は、stG485.0、stG6792.3 がそれぞれ 2 株、stG10.0、stG166b.0、stG652.5、stG840.0 がそれぞれ 1 株であった。

表 32 劇症型溶血性レンサ球菌 月別分離状況 (2021 年)

分離月	菌種名	T血清型/ <i>emm</i> 型、莢膜型	性別	年齢
1月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG6792.3	男	70歳代
1月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG485.0	女	90歳代
2月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG166b.0	男	70歳代
3月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	女	80歳代
4月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG6792.3	男	70歳代
4月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG652.5	女	70歳代
6月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T1 / emm1.0	男	40歳代
7月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T12 / emm12.7	男	60歳代
9月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	男	70歳代
10月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG485.0	男	90歳代
11月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T9 / emm9.0	男	50歳代
11月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG10.0	男	80歳代
12月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	SDSE / stG840.0	女	90歳代

オ 侵襲性インフルエンザ菌

侵襲性インフルエンザ菌感染症由来のインフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae*) は、7月と11月にそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。2株とも無莢膜型のインフルエンザ菌 (Non-typeable *Haemophilus influenzae*: NTHi) であった。

カ 侵襲性肺炎球菌

侵襲性肺炎球菌感染症由来の肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) は、7月と10月にそれぞれ1株ずつ、計2株分離された。血清型/シーケンスタイプは、10A/STnew、34/ST3116がそれぞれ1株であった。

キ 播種性クリプトコックス症

Cryptococcus neoformans は1月、2月、5月10月に1株ずつ、計4株分離された。

ク 先天性風しん症候群

2例5検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表31)。

ケ 風しん

2例6検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表31)。

コ 麻しん

7例21検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表31)。

II 定点把握対象疾患の発生動向

1 定点把握対象疾患の概要

1) 内科定点及び小児科定点の感染症

2020-2021 年シーズン及び 2021-2022 年シーズンにインフルエンザの流行は観察されなかった。

2) 小児科定点の感染症

RSウイルス感染症の流行のピークは、2016 年以降では 8 月から 10 月にかけて観察されている。2021 年の流行は 5 月から始まり、ピークは 7 月で、9 月まで続いた。咽頭結膜熱は、例年に比べ小規模な流行が夏季と冬季に観察された。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、年間を通して例年を下回る水準で推移した。感染性胃腸炎は、11 月から 12 月の冬季流行は、小規模な流行年であった 2017 年及び 2018 年と同等であった。水痘は、年間を通して例年を下回る水準で推移した。手足口病は、2011 年以降、2013 年、2015 年、2017 年、2019 年と隔年で大きな流行が観察されているが、2021 年は流行が観察されなかった。伝染性紅斑は、2018 年から始まった流行が前年に終息し、2021 年は年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。突発性発しんは、6 月から 9 月までは例年を下回る水準で推移したが、それ以外の期間は例年同様の動向が観察された。ヘルパンギーナは、夏季の流行が観察されなかった。流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、2018 年以降非流行期が続いている。

3) 眼科定点の感染症

急性出血性結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

4) 基幹定点の感染症

ア 週単位報告の感染症(2021 年第 1 週～第 52 週)

細菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 0.22～1.89 であった。2021 年の定点当たり報告患者総数は 1.00 で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 2.00～6.00 であった。2021 年の定点当たり報告患者総数は 2.45 で、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 7.91～128.11 であった。2021 年の定点当たり報告患者総数は 0.91 で、過去 10 年の最小値を下回った。クラミジア肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 0.00～6.00 であった。2021 年は前年に引き続き、患者の報告はなかった。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は 2013 年第 42 週から報告対象疾患となり、2014 年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は 0.09～11.40 であった。2021 年の定点当たり報告患者総数は 0.27 で、流行は観察されなかった。インフルエンザ(入院患者)は 2011 年第 36 週から報告対象疾患となり、2012 年以

降の定点当たり報告患者総数の変動幅は 11.91～52.64 であった。2021 年の定点当たり報告患者総数 0.09 で、過去 9 年の最小値を下回った。

イ 月単位報告の感染症(2021 年 1 月～12 月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2000 年代には 30.00 を超える年もあったが、2013 年以降は 20.00 を下回っていた。2021 年の定点当たり報告患者総数は 22.36 で、前年より増加した。全国と比較すると少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2005 年から 2011 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 1.91 で、全国より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 1.00 以上であったが、2008 年から 2020 年までは 0.09～0.89 で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 0.27 で、全国と同等であった。

5) 性感染症定点の感染症

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 30.00 を上回っていたが、2008 年から 2020 年までは 24.12～28.72 で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 27.89 で、全国より少なかった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、5.82～9.50 で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 8.45 で、全国より少なかった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、3.84～6.28 で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 4.26 で、全国より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、6.47～17.44 で推移している。2021 年の定点当たり報告患者総数は 7.39 で、全国より少なかった。

2 内科及び小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2021年の第1週～52週の累積報告患者数は35人であった。定点当たり報告患者総数0.14は前年と比べ著しく減少した。定点当たり報告数は前年の第12週(3/16～3/22)以降1.00を下回り、例年のような冬の流行は2シーズン観察されなかった。年齢階級別では、20歳未満が全体の65.7%、10歳未満は全体の48.6%を占めた。

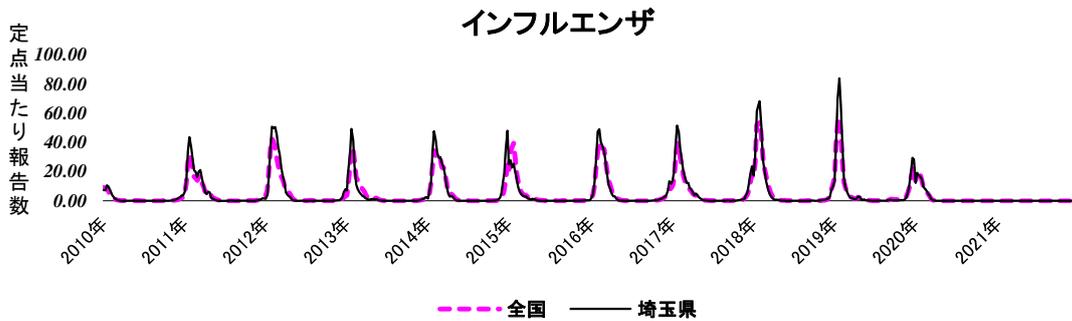


図 6-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：インフルエンザ）

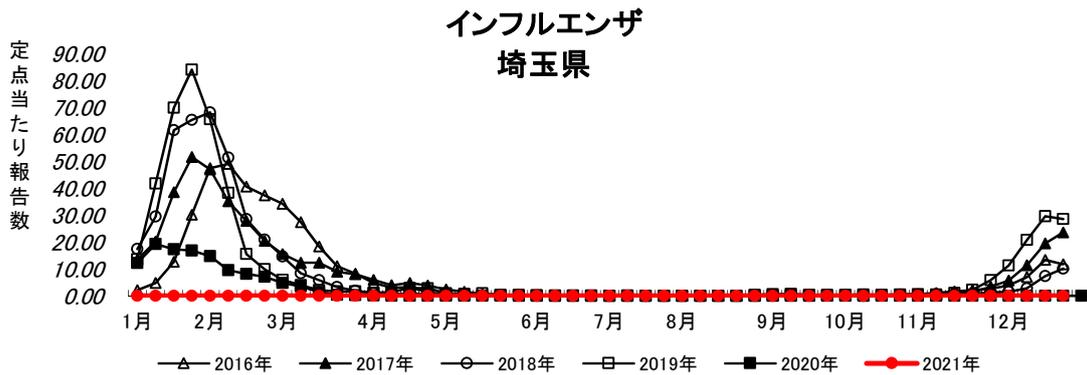


図 6-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：インフルエンザ）

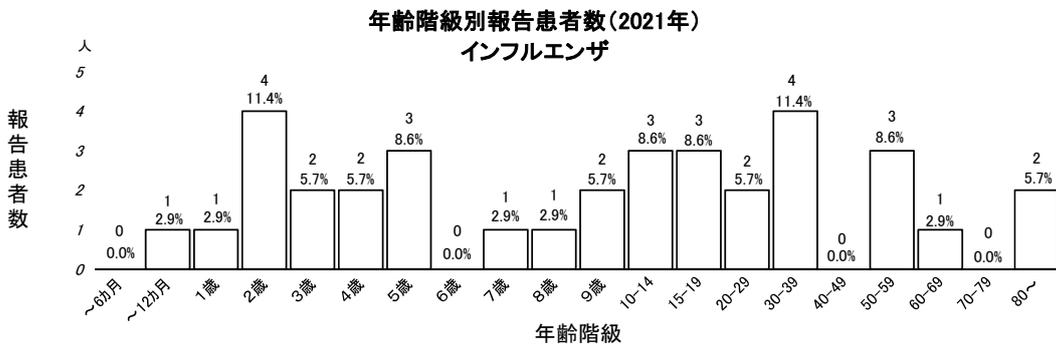


図 6-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：インフルエンザ）

3 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2021年第1週～52週の累積報告患者数は8,833人であった。定点当たり報告患者総数55.55は前年と比べ著しく増加した。定点当たり報告数は例年より早い5月から増加し始め、最大値は第28週(7/12～18)に6.49を観測し、9月まで多い状態が続いた。定点当たり報告患者総数及び定点当たり報告数の最大値は、感染症法に基づく調査が開始された2003年以来、最大であった。年齢階級別では15-19歳を除く階級で報告があり、1歳が最も多く、2歳、3歳の順に続き、1歳～3歳が全体の69.3%を占めた。

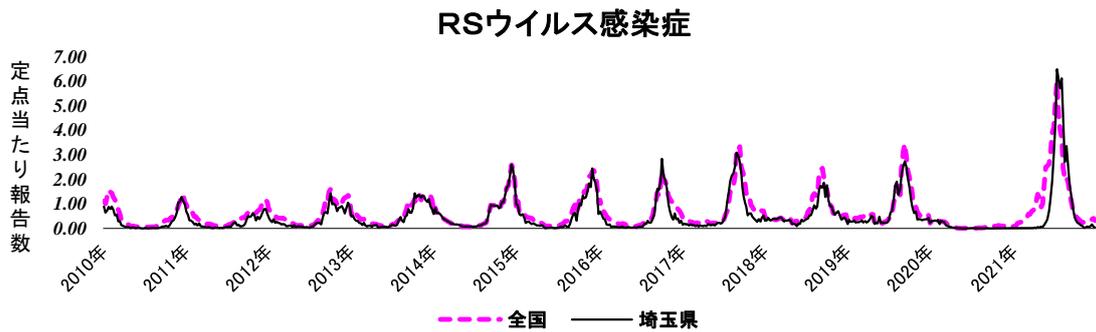


図 7-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：RSウイルス感染症）

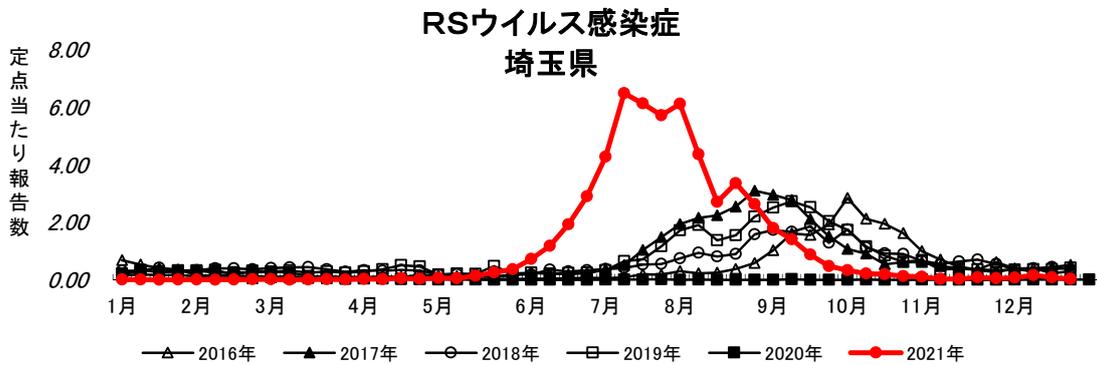


図 7-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：RSウイルス感染症）

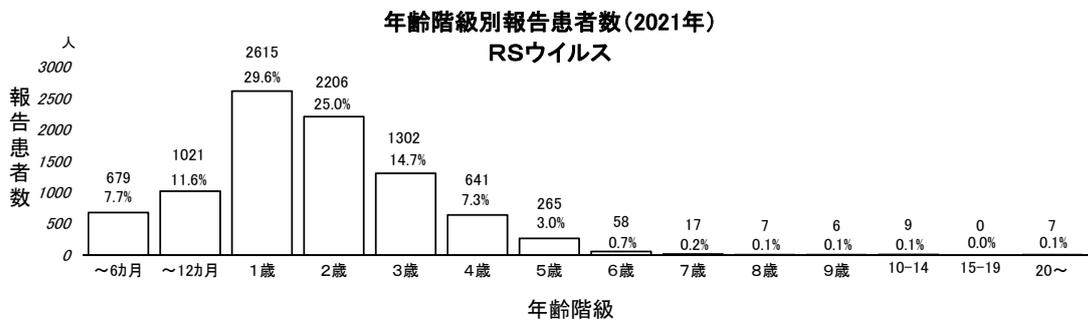


図 7-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：RSウイルス感染症）

2) 咽頭結膜熱

2021年第1週～52週の累積報告患者数は1,623人であった。定点当たり報告患者総数10.21は前年と同水準であった。夏季流行は例年に比べ小規模で、冬季流行も前年と同様に小規模であった。定点当たり報告数の最大値0.52は、第24週(6/14～20)に観察された。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～3歳が全体の71.2%を占めた。

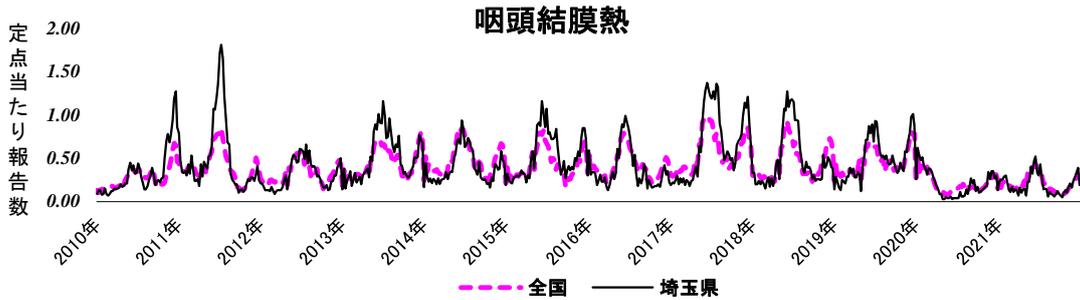


図 8-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：咽頭結膜熱）



図 8-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：咽頭結膜熱）

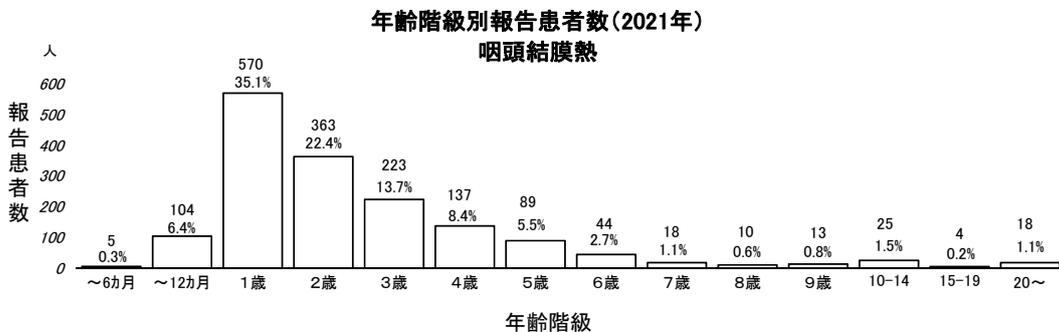


図 8-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：咽頭結膜熱）

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は3,388人であった。定点当たり報告患者総数21.31は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数は、前年の3月以降例年を下回る水準で推移した。2021年の定点当たり報告数の最大値は第17週(4/26～5/2)の0.71であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、2歳～8歳で全体の70.2%を占めた。

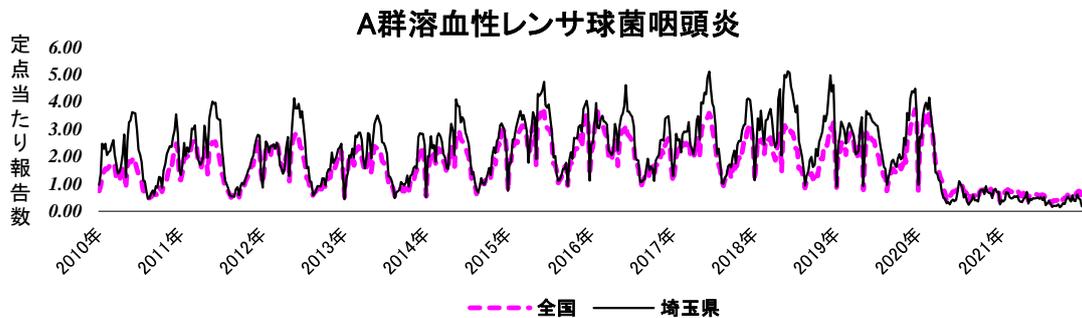


図 9-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）

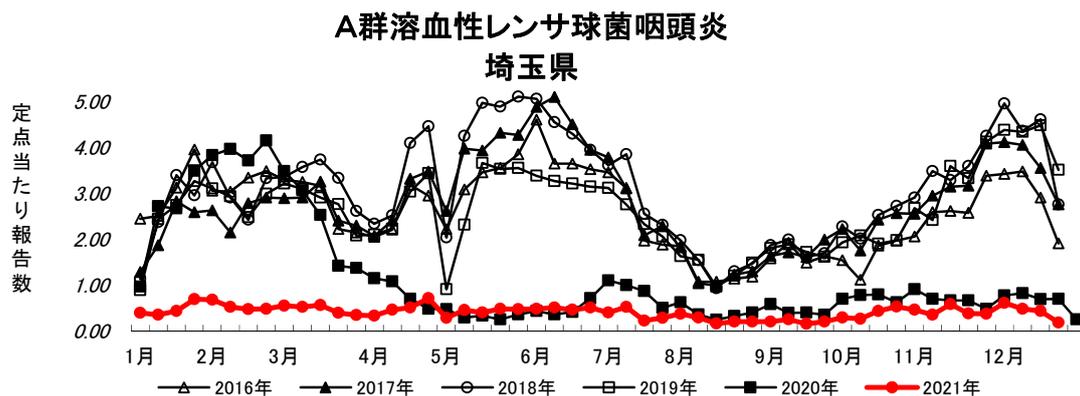


図 9-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）

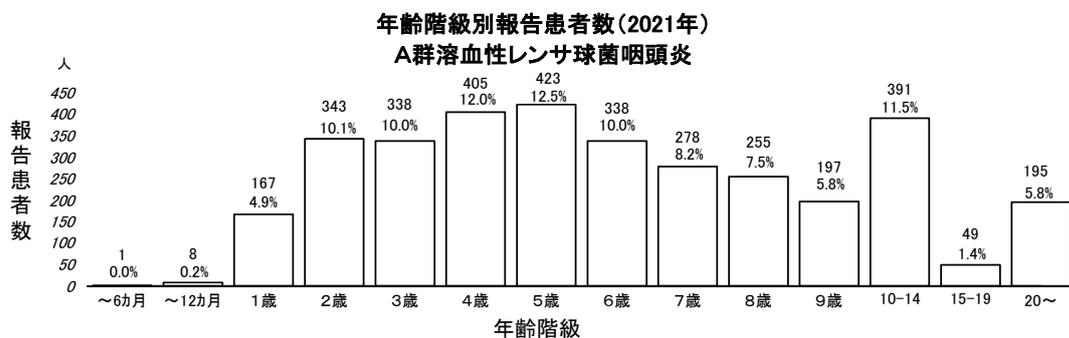


図 9-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）

4) 感染性胃腸炎

2021年第1週～52週の累積患者報告数は32,754人であった。定点当たり報告患者総数206.00は前年と比べ増加した。冬季流行は10月以降に緩やかに始まり、定点当たり報告数の最大値は第51週(12/20～26)の11.91であった。冬季以外では、5月から7月にかけて報告数がやや多い状況が続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多かった。

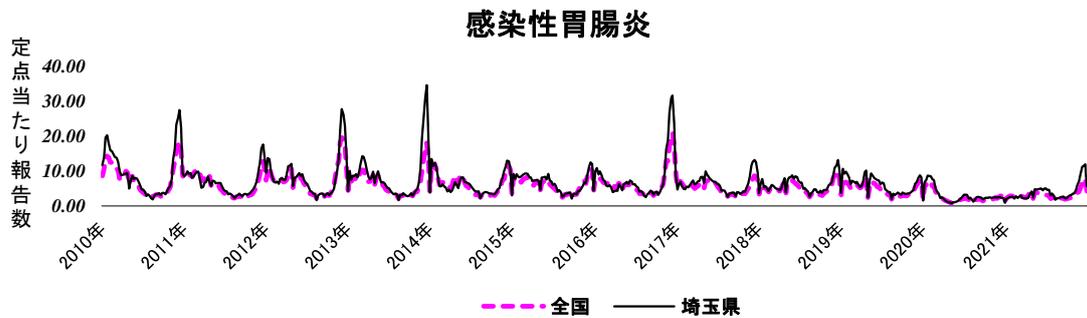


図 10-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：感染性胃腸炎）

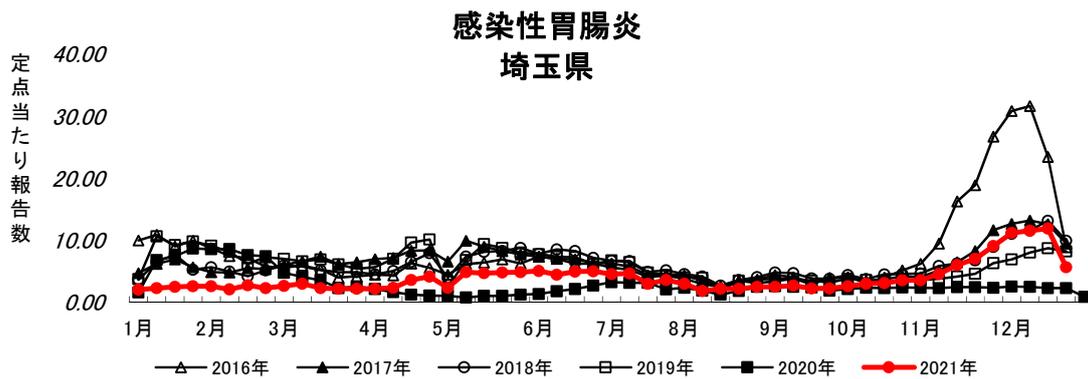


図 10-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：感染性胃腸炎）

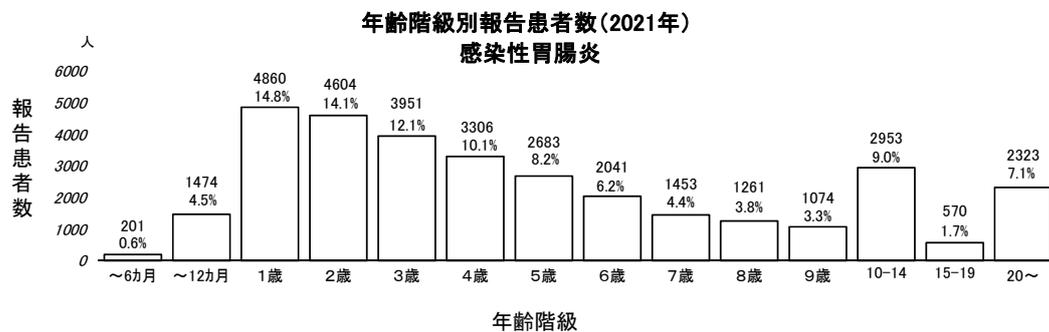


図 10-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：感染性胃腸炎）

5) 水痘

2021年第1週～第52週の累積報告患者数は1,061人であった。定点当たり報告患者総数6.67は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は前年の4月以降0.50を下回る水準で推移した。2021年の最大値は第45週(11/8～14)及び第48週(11/29～12/5)の0.26であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、10歳未満では、6歳、4歳、7歳の順に多く、4歳～9歳で全体の60.8%を占めた。

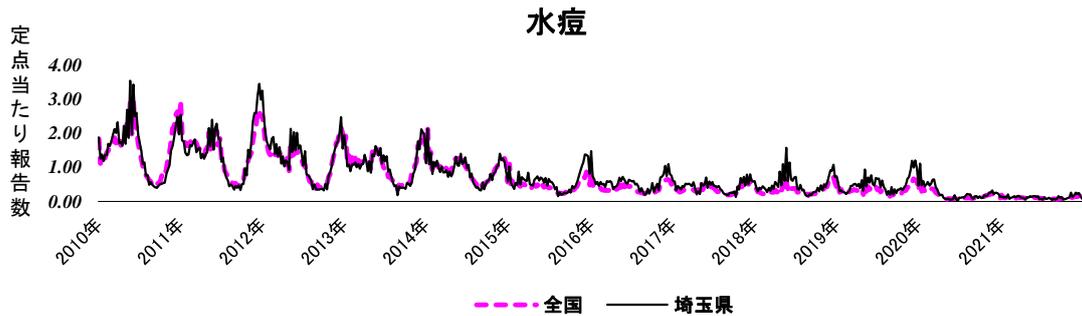


図 11-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：水痘）

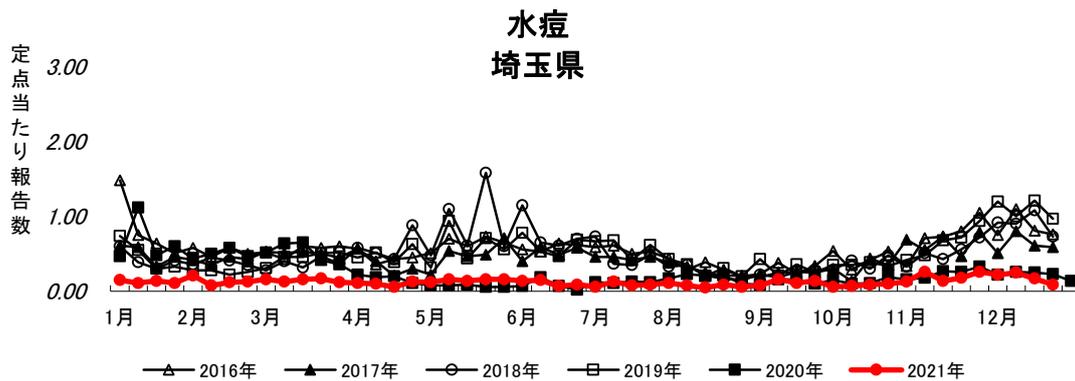


図 11-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：水痘）

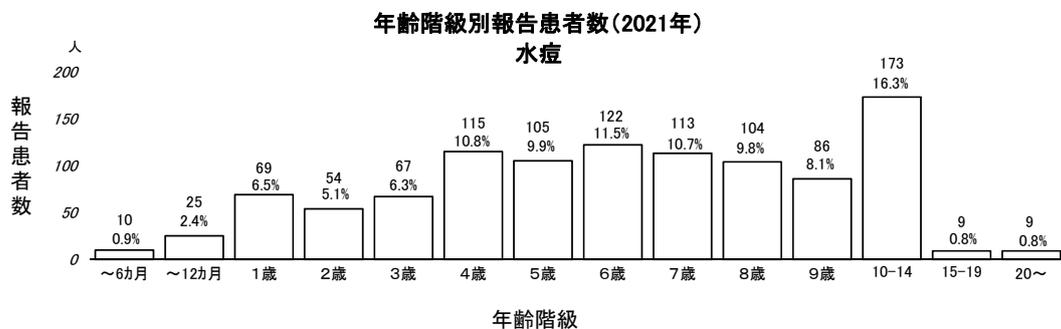


図 11-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：水痘）

6) 手足口病

2021年第1週～52週の累積報告患者数は838人であった。定点当たり報告患者総数5.27は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は第51週(12/20～26)の0.43で、前年に引き続き夏季流行は観察されなかった。年齢階級別では15-19歳を除く階級で報告があり、1歳が最も多く1歳及び2歳で全体の66.0%を占めた。

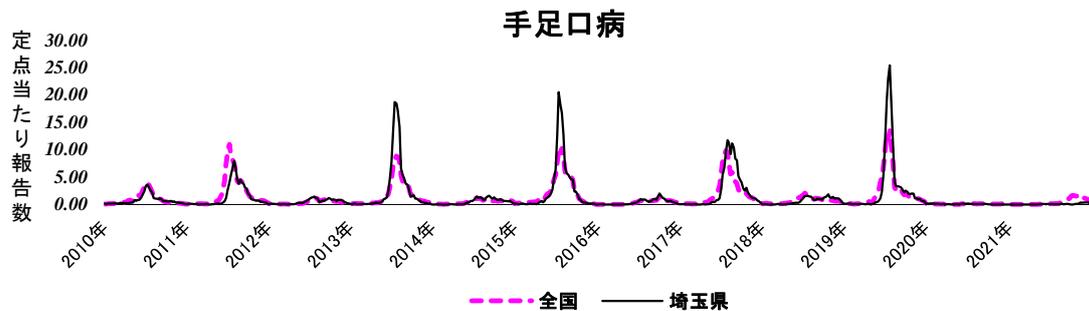


図 12-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：手足口病）

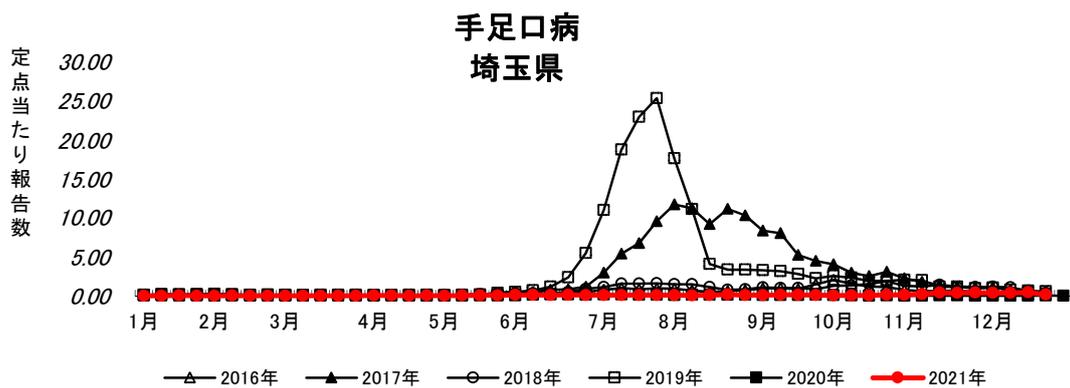


図 12-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：手足口病）

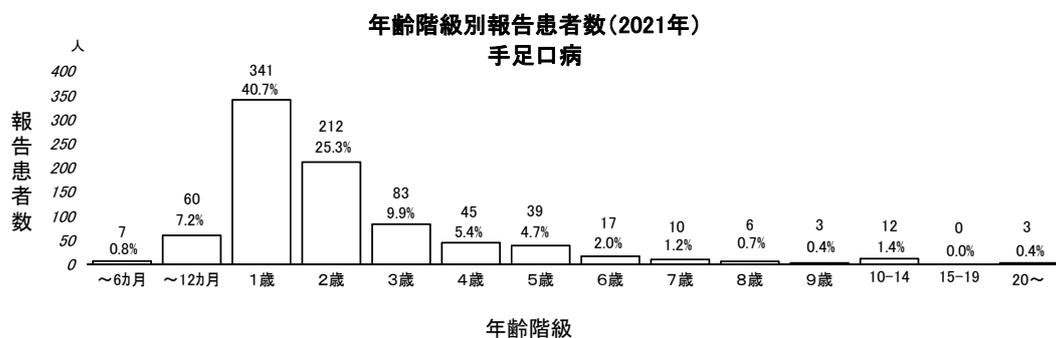


図 12-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：手足口病）

7) 伝染性紅斑

2021年第1週～52週の累積報告患者数は141人であった。定点当たり報告患者総数0.89は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第16週(4/19～25)及び第17週(4/26～5/2)の0.05で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、1歳が最も多く、次いで2歳と続いた。

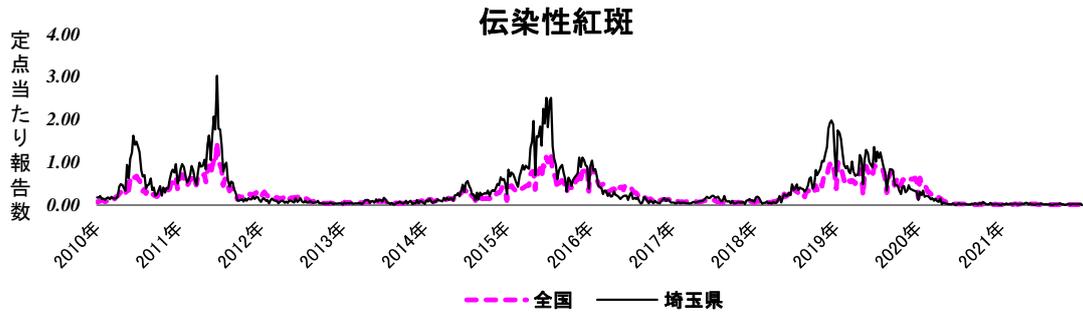


図 13-1 定点当たり報告患者数の年推移（国比較：伝染性紅斑）



図 13-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：伝染性紅斑）

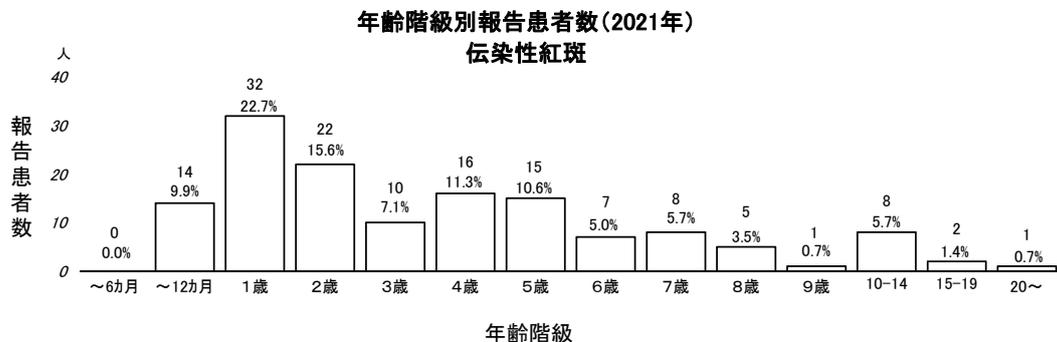


図 13-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：伝染性紅斑）

8) 突発性発しん

2021年第1週～52週の累積報告患者数は3,442人であった。定点当たり報告患者総数21.65は前年と同水準であった。定点あたり報告数は6月から9月までは例年よりやや少ない水準で推移したが、1月から5月、10月以降は例年同様の動向が観察された。定点あたり報告数の最大値は第23週(6/7～6/13)の0.63であった。年齢階級別では、例年同様に1歳が最も多く、2歳未満で全体の81.8%を占めた。

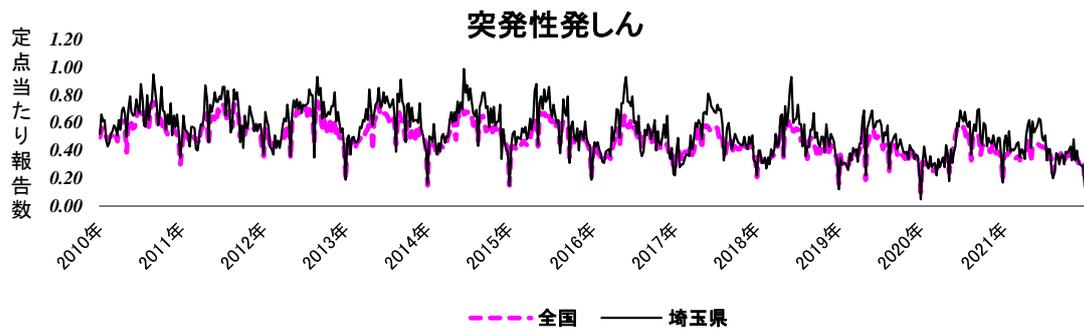


図 14-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：突発性発しん）

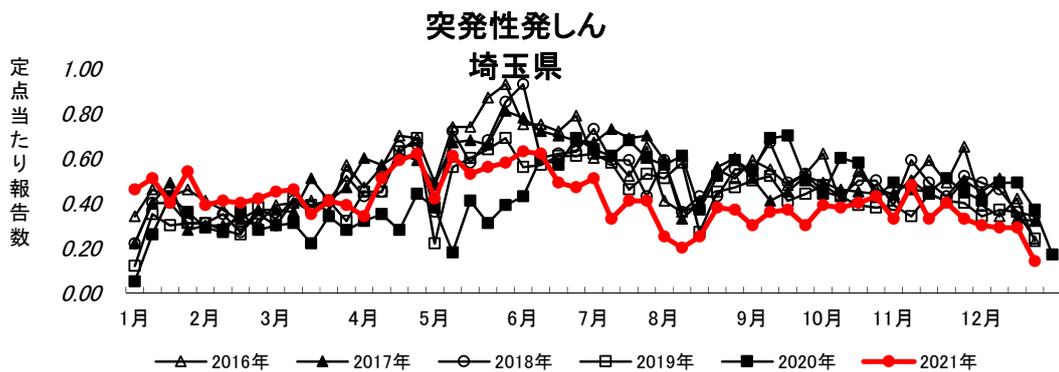


図 14-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：突発性発しん）

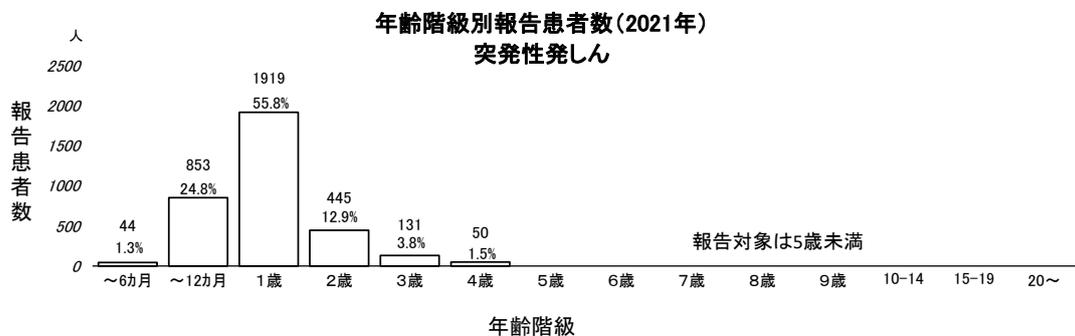


図 14-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：突発性発しん）

9) ヘルパンギーナ

2021年第1週～52週の累積報告患者数は992人であった。定点当たり報告患者総数6.24は前年と比べ増加した。定点当たり報告数の最大値は第35週(8/30～9/5)の0.37で、夏季に報告数のわずかな増加を観察したが、1.00を上回ることにはなかった。年齢階級別では全ての年齢階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の73.6%を占めた。

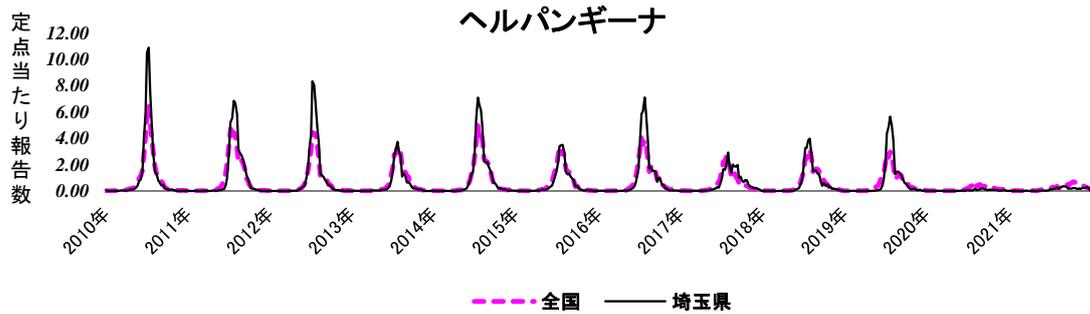


図 15-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：ヘルパンギーナ）

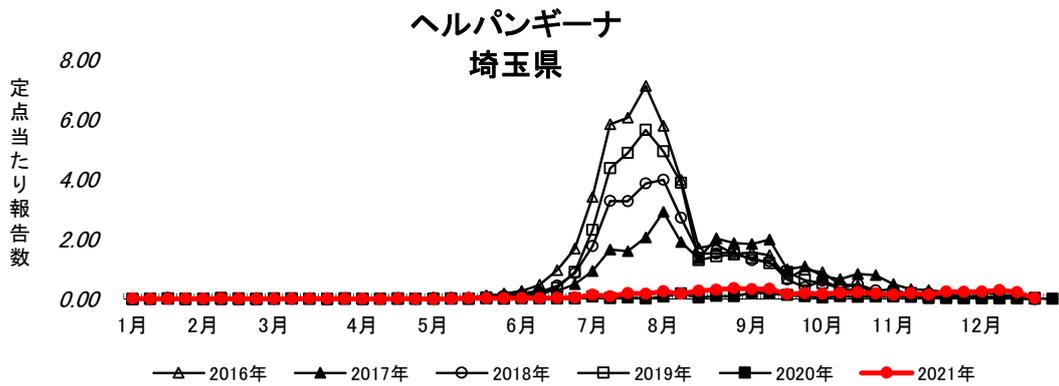


図 15-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：ヘルパンギーナ）

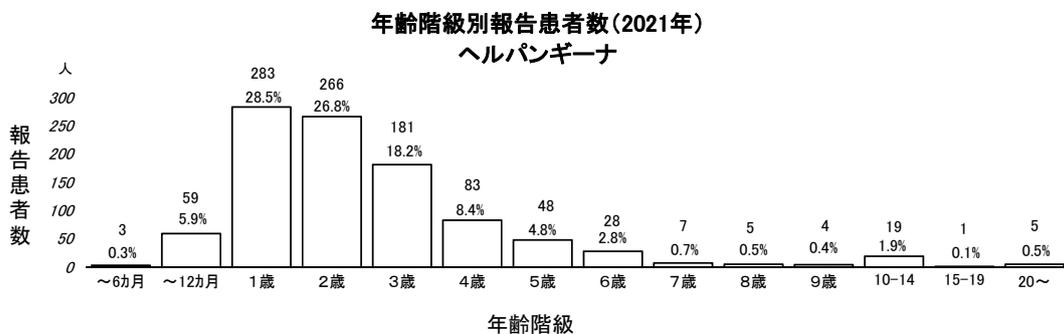


図 15-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：ヘルパンギーナ）

10) 流行性耳下腺炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は544人であった。定点当たり報告患者総数3.42は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は、第30週(7/26～8/1)の0.15で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では20歳以上を除く階級で報告があり、5歳が最も多く3歳～8歳で全体の73.5%を占めた。

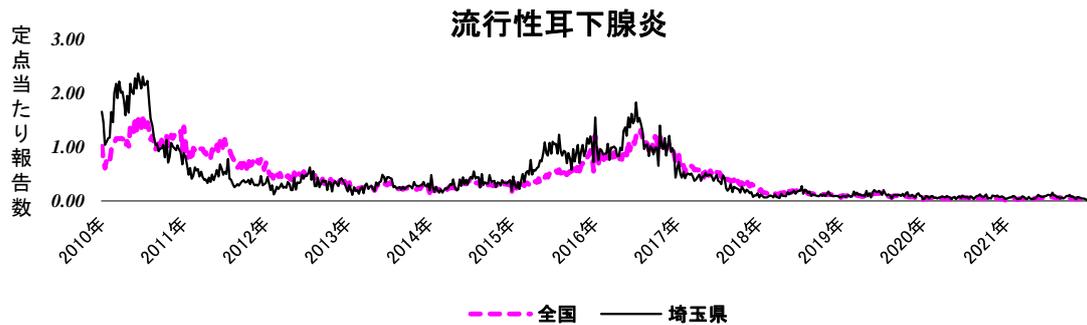


図 16-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：流行性耳下腺炎）

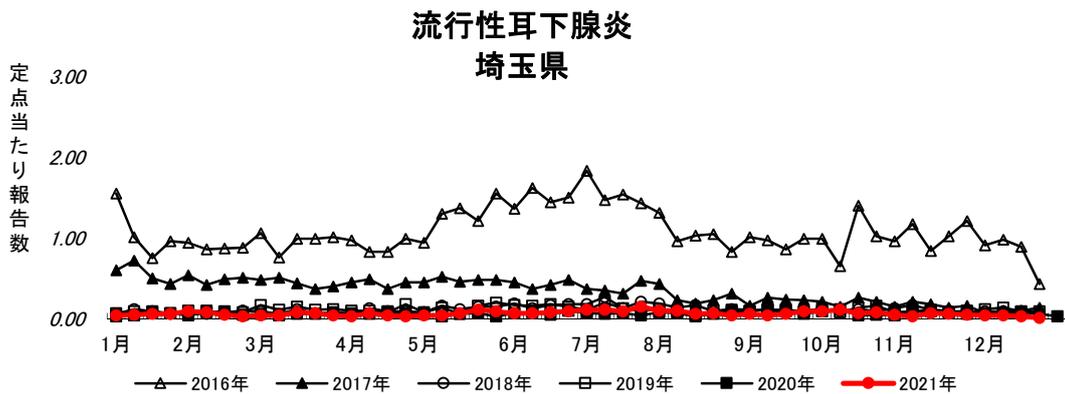


図 16-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：流行性耳下腺炎）

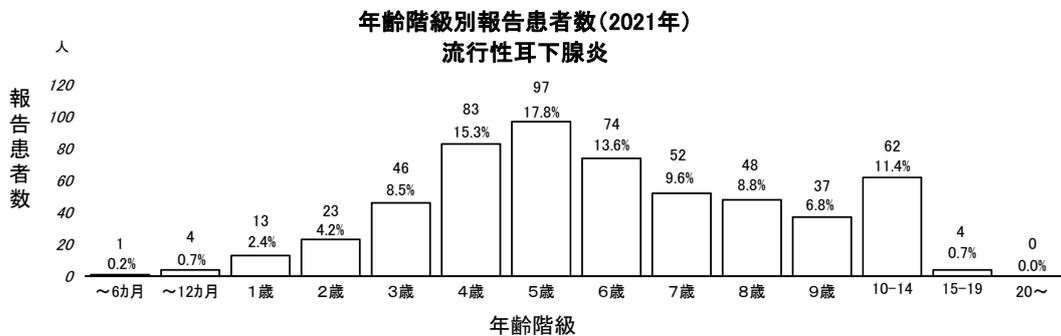


図 16-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：流行性耳下腺炎）

4 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は29人であった。定点当たり報告患者総数0.74は前年と比べ減少した。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち20週で1人～3人の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/12～18)の0.07であった。年齢階級別では、20歳代、1歳、50歳代の順に多かった。

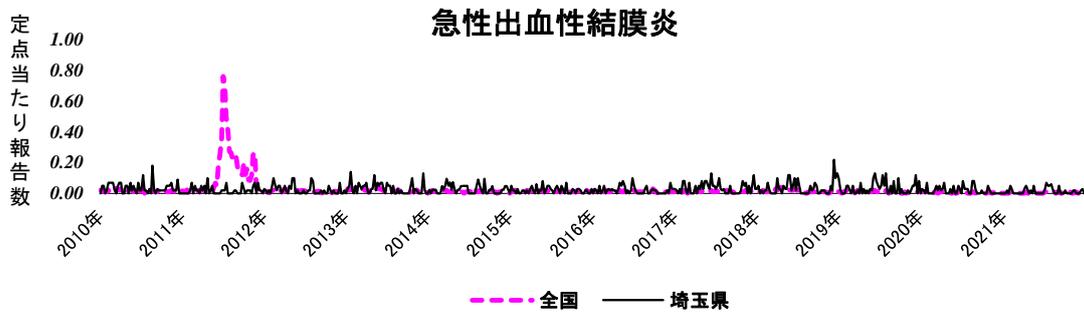


図 17-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：急性出血性結膜炎）

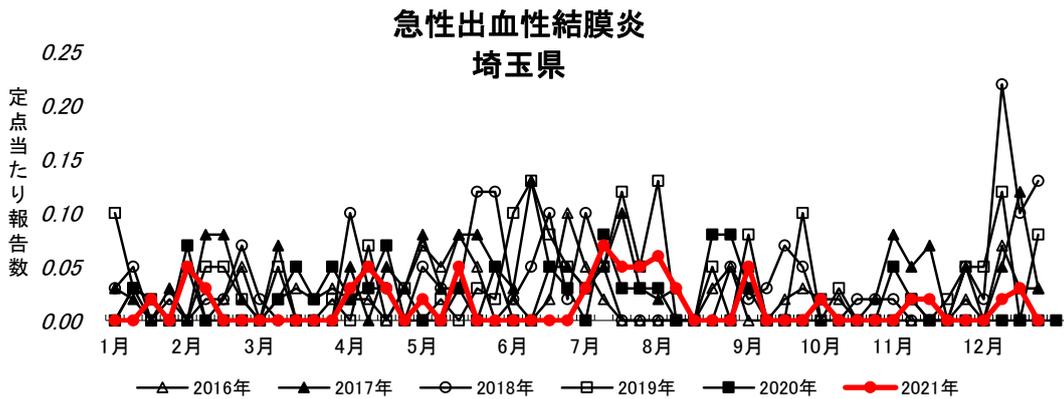


図 17-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：急性出血性結膜炎）

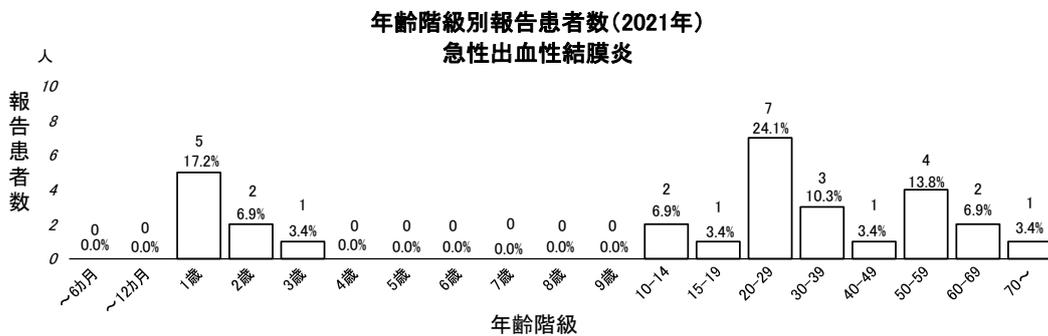


図 17-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：急性出血性結膜炎）

2) 流行性角結膜炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は391人であった。定点当たり報告患者総数10.03は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第24週(6/14～20)の0.44で、年間を通して例年を下回る水準で推移した。年齢階級別では、6か月以上12カ月未満を除く全ての階級で報告があり、10歳未満では、4歳、3歳、5歳の順に多く、20歳以上では、20歳代が最も多く、年齢が上がるにつれ報告患者数は少なくなった。

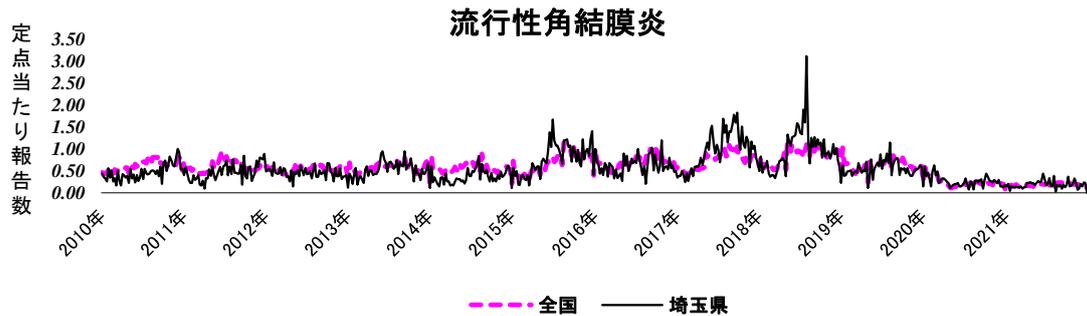


図 18-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：流行性角結膜炎）

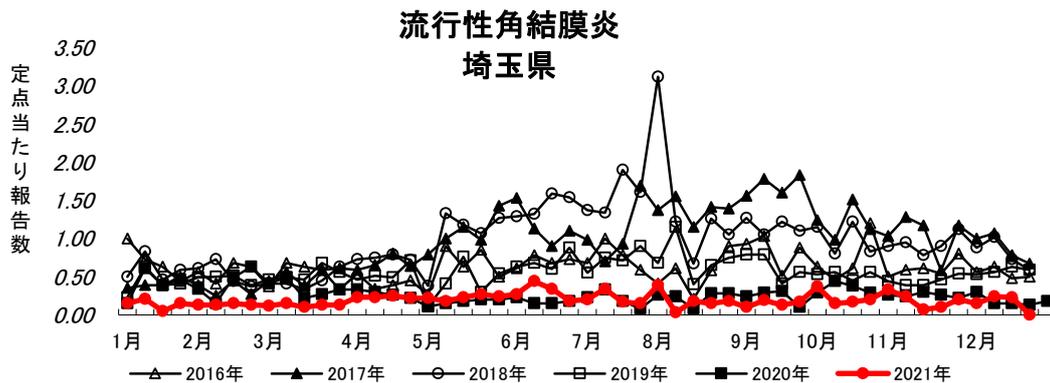


図 18-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：流行性角結膜炎）

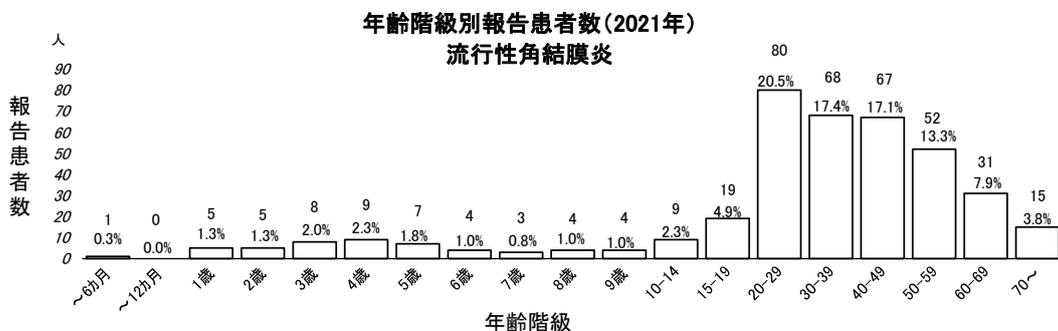


図 18-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：流行性角結膜炎）

5 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は11人であった。定点当たり報告患者総数1.00は前年と同水準であった。報告は散発的で、52週のうち9週で1人～3人の報告があり、定点当たり報告数の最大値は0.27であった。年齢階級別では、65歳以上が54.5%占めた。

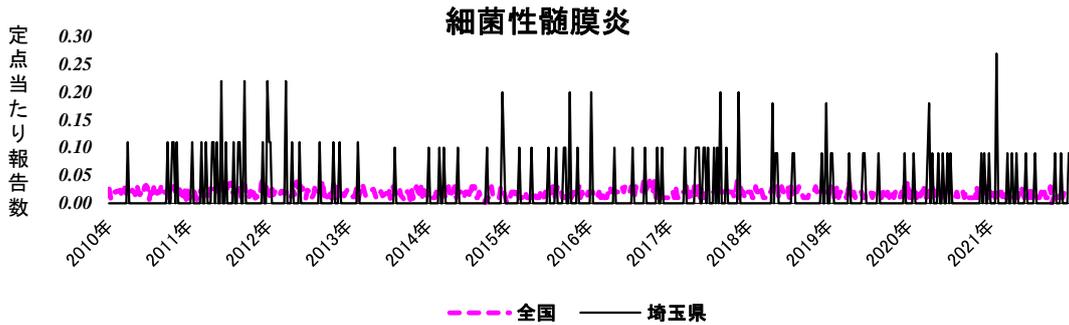


図 19-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：細菌性髄膜炎）

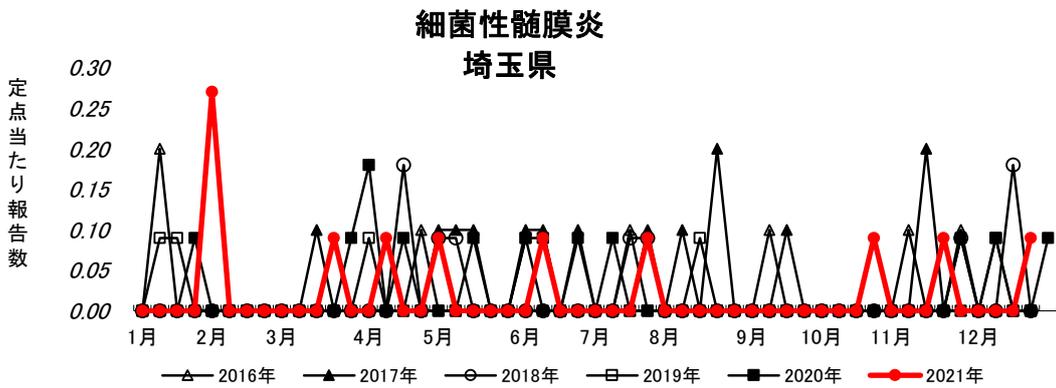


図 19-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：細菌性髄膜炎）

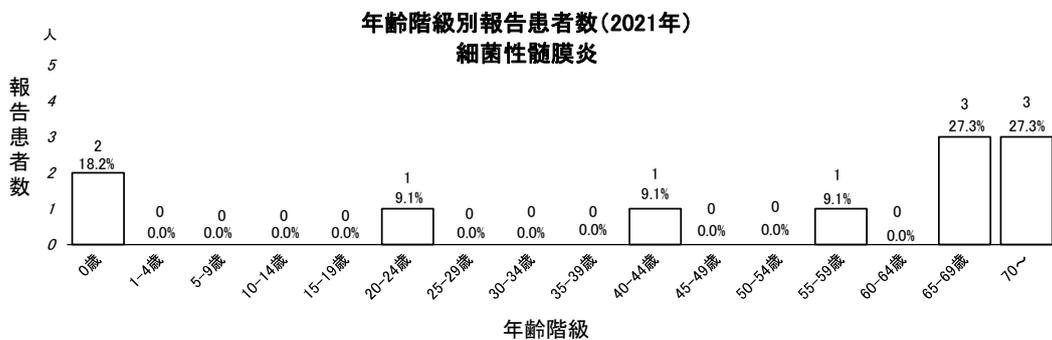


図 19-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：細菌性髄膜炎）

2) 無菌性髄膜炎

2021年第1週～52週の累積報告患者数は27人であった。定点当たり報告患者総数2.45は前年と同水準であった。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち21週で1人～3人の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第5週(2/1～7)の0.27であった。年齢階級別では、0歳が4人で最も多く、20歳未満が37.0%、20～70歳未満が51.9%、70歳以上が11.1%であった。

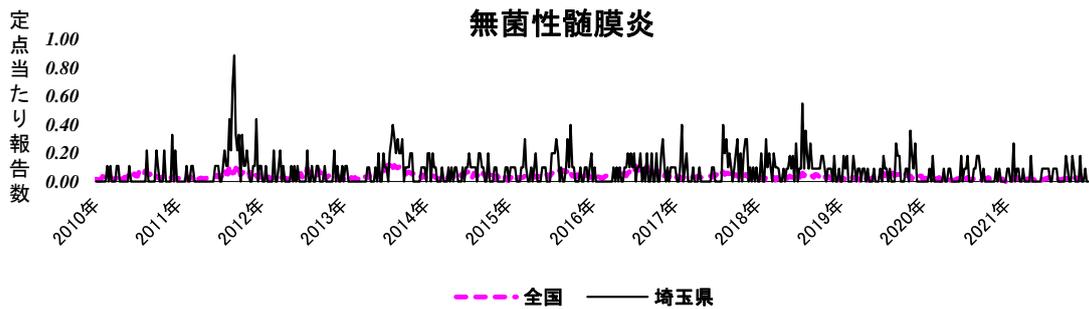


図 20-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：無菌性髄膜炎）

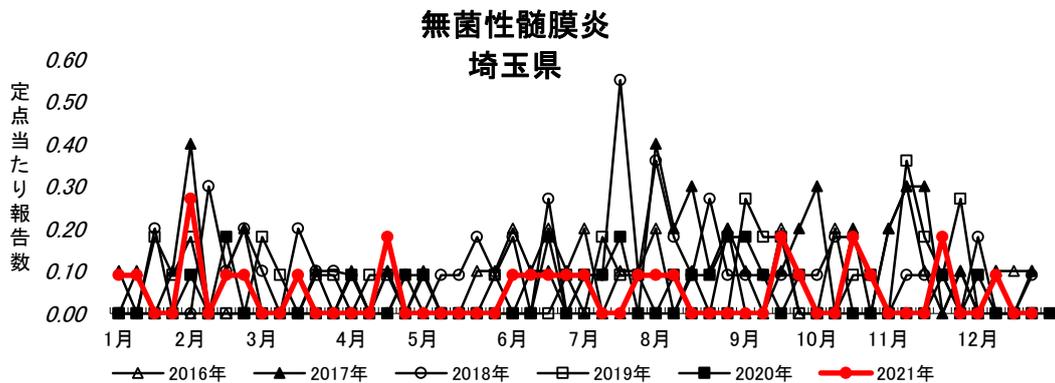


図 20-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：無菌性髄膜炎）

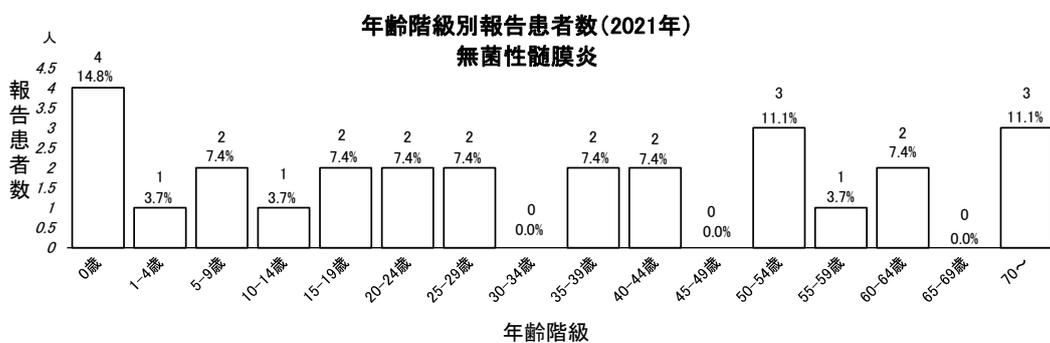


図 20-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：無菌性髄膜炎）

3) マイコプラズマ肺炎

2021年の第1週～52週の累積報告患者数は10人であった。定点当たり報告患者総数0.91は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は、第9週(3/1～7)の0.18で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、報告は散発的であった。年齢階級別では20歳未満が50.0%を占めた。

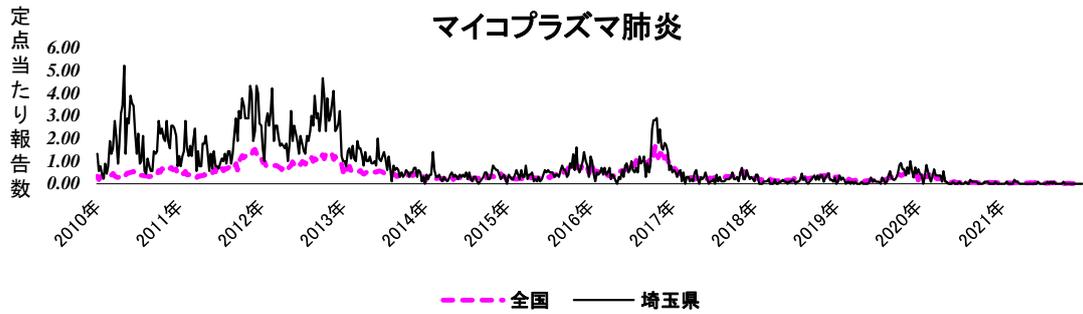


図 21-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：マイコプラズマ肺炎）

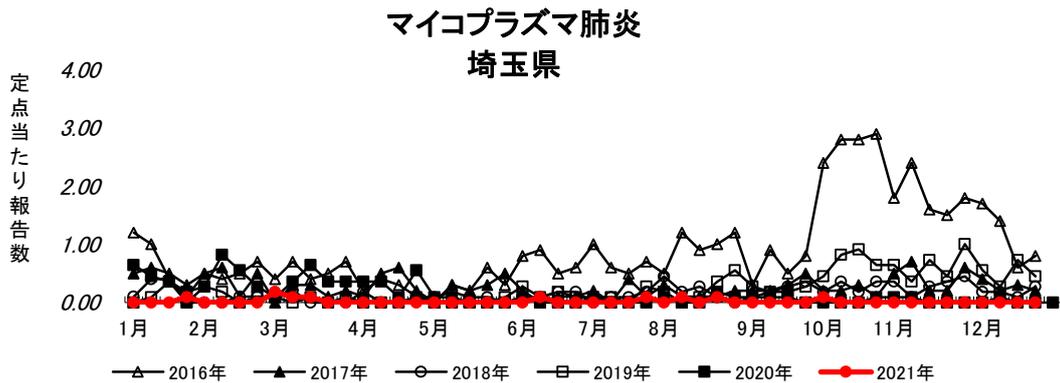


図 21-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）

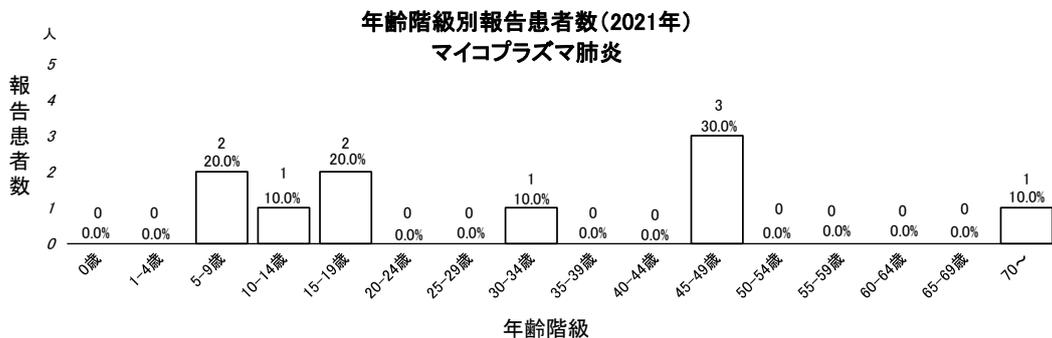


図 21-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）

4) クラミジア肺炎

2021年第1週～52週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4人、2019年が1人と2018年以降は5人未満となっている。

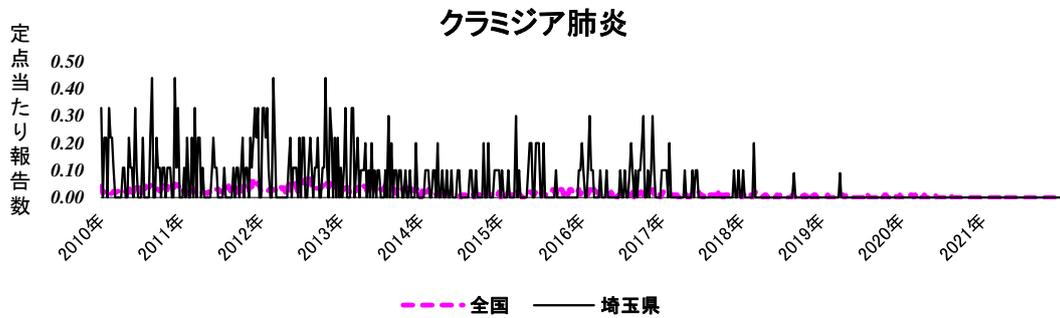


図 22-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：クラミジア肺炎）

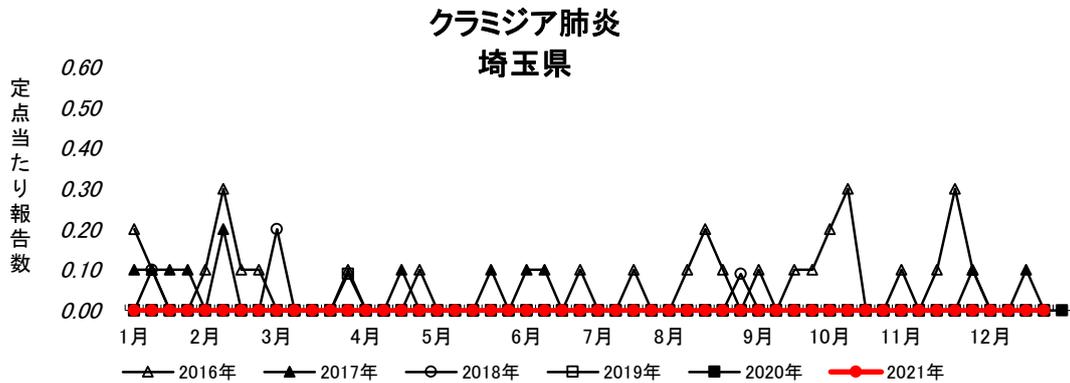


図 22-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：クラミジア肺炎）

5) 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2021年の第1週～52週の累積報告患者数は3人であった。定点当たり報告患者総数0.27は前年と同水準で、例年のような初春から初夏にかけての流行は観察されなかった。年齢階級別では1-4歳が2人、65-69歳が1人であった。

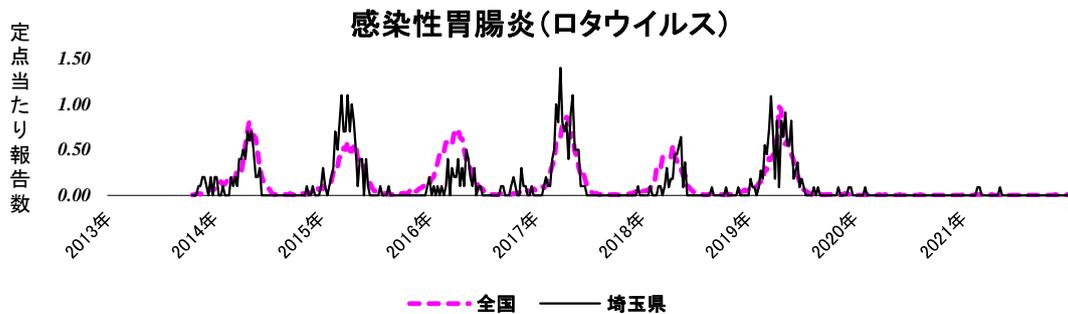


図 23-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

2013年第42週から報告対象疾患となった。

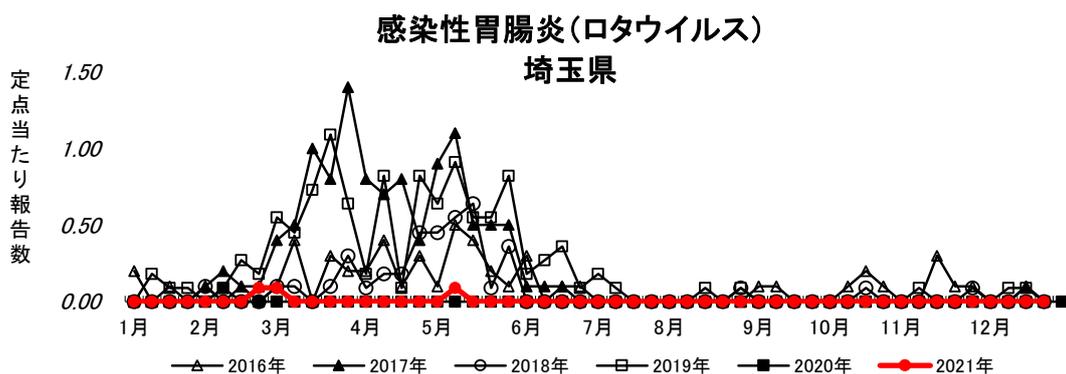


図 23-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

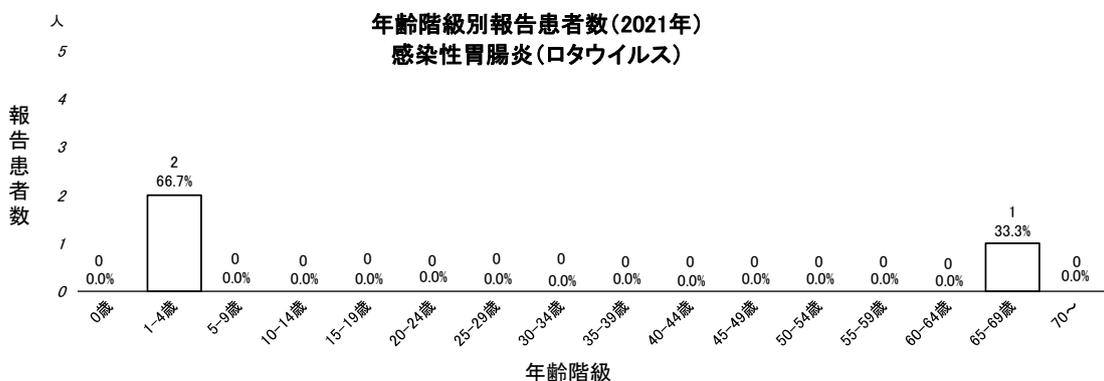


図 23-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

6) インフルエンザ（入院患者）

2021年第1週～52週の患者の報告は、第12週（3/22-28）の70歳以上1人のみであった。定点当たり報告患者総数0.09は前年と比べ大きく減少した。

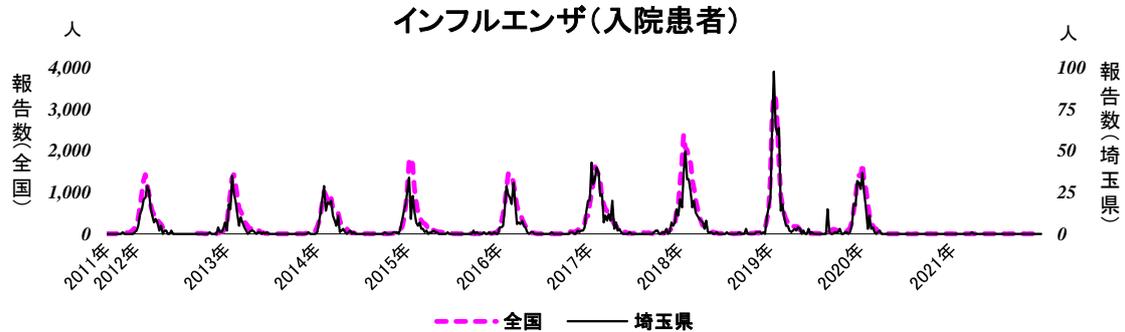


図 24-1 報告患者数の年推移（全国比較：インフルエンザ（入院患者））

2011年第36週から報告対象疾患となった。全国の情報で定点当たり報告数の還元情報がないため、報告患者数を用いた。2012年第17週～35週は全国の情報還元はなかった。

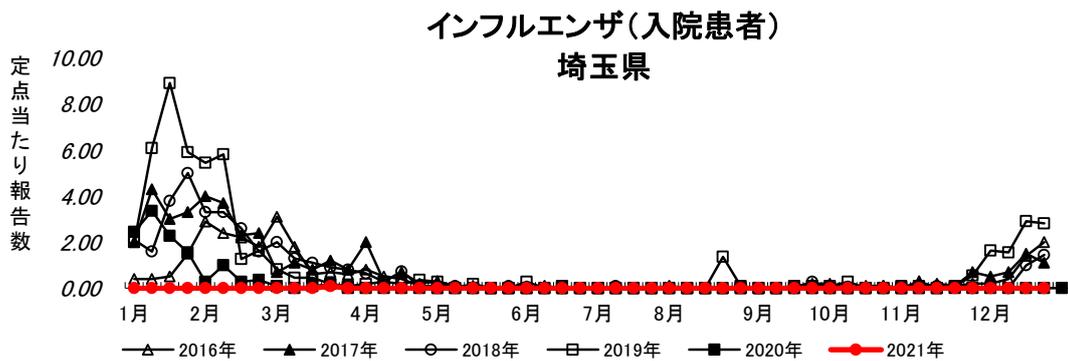


図 24-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））

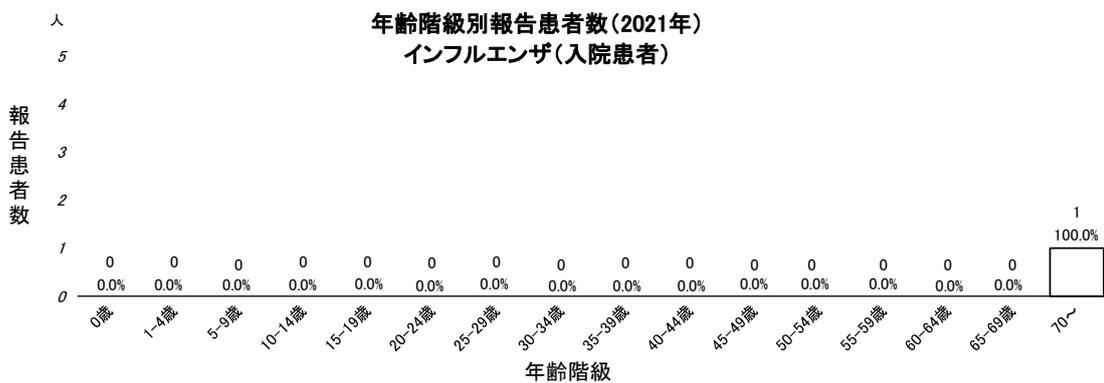


図 24-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は246人であった。定点当たり報告患者総数22.36は前年と比べ増加した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.91、最大値3.27の範囲で推移した。最大値は前年の最大値1.82を上回った。年齢階級別では、70歳以上が177人（男性：112人、女性：65人）で最も多く、全体の72.0%を占めた。

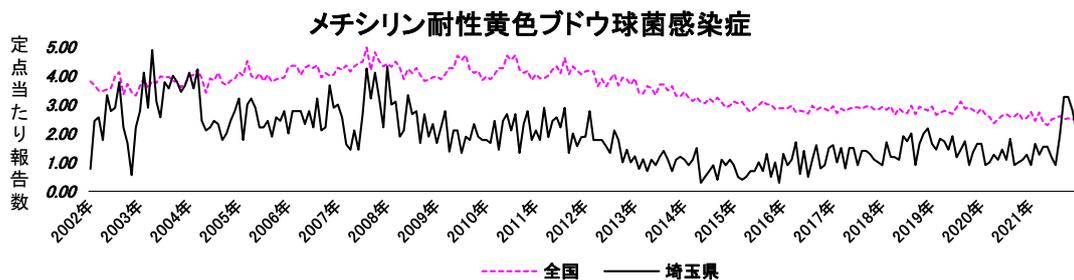


図 25-1 定点当たり報告患者数の年推移
(全国比較：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

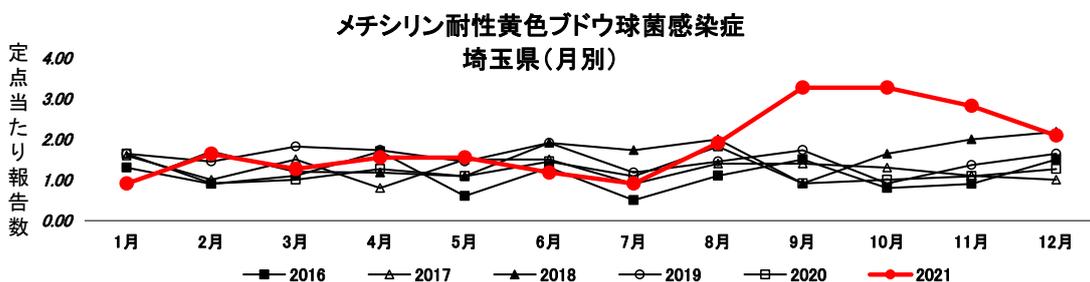


図 25-2 定点当たり報告患者数の推移
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

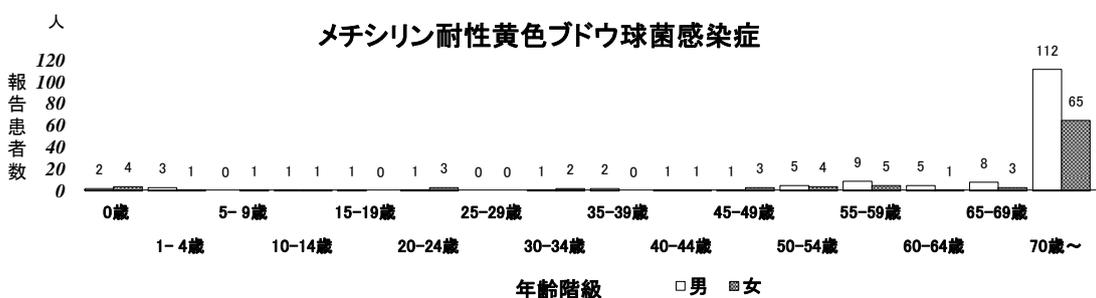


図 25-3 年齢階級別報告患者数
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は21人であった。定点当たり報告患者総数1.91は前年と比べわずかに減少した。報告は年間を通して断続的に観察され、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.36の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.55を下回った。年齢階級別では、60歳以上が14人（男性：10人、女性：4人）で、全体の66.7%を占めた。

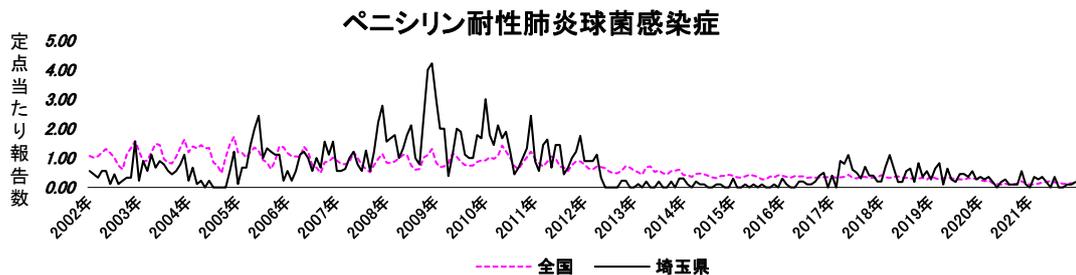


図 26-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

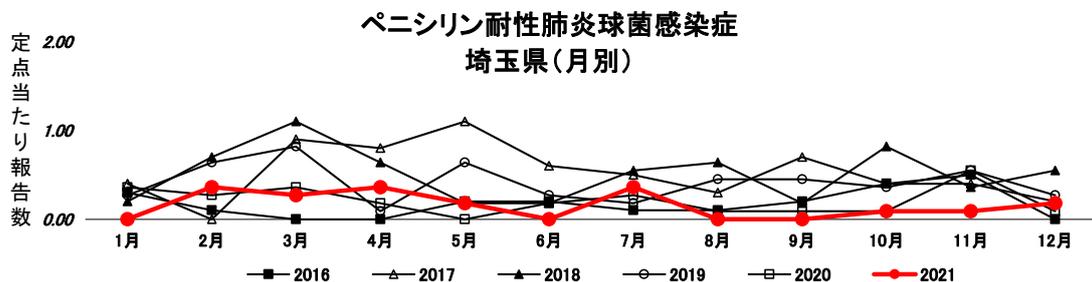


図 26-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

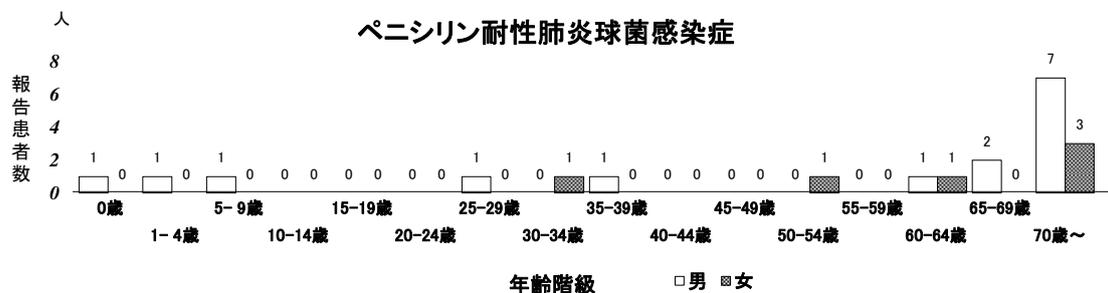


図 26-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は3人であった。定点当たり報告患者総数0.27は前年と比べ減少した。報告は3月、5月及び6月に各1人で、定点当たり報告患者数の最大値0.09は、前年の最大値を下回った。年齢階級別では、70歳以上が2人（男性：1人、女性：1人）、35-39歳が1人（男性）であった。

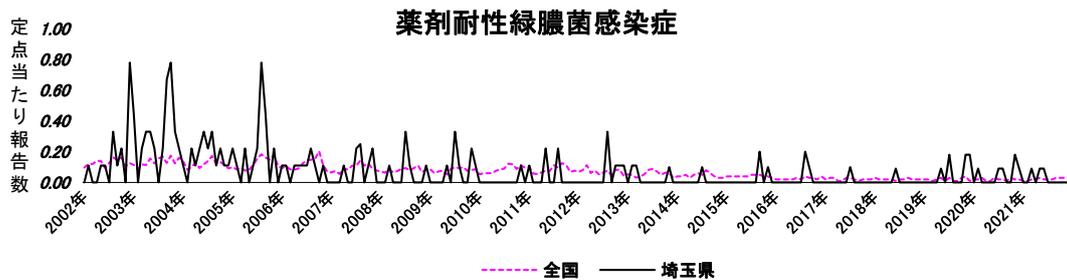


図 27-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：薬剤耐性緑膿菌感染症）

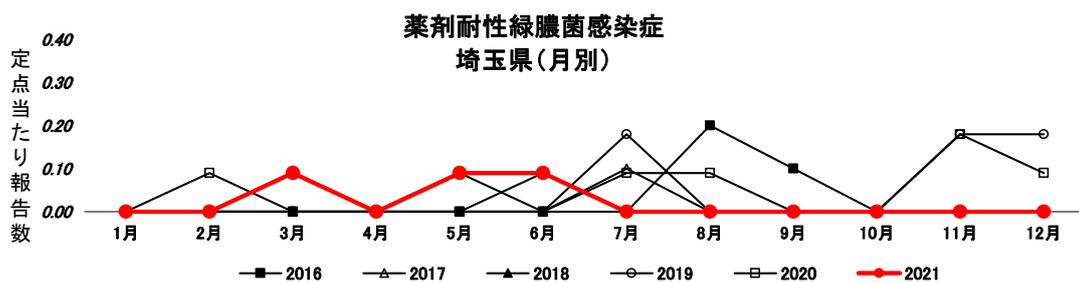


図 27-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）

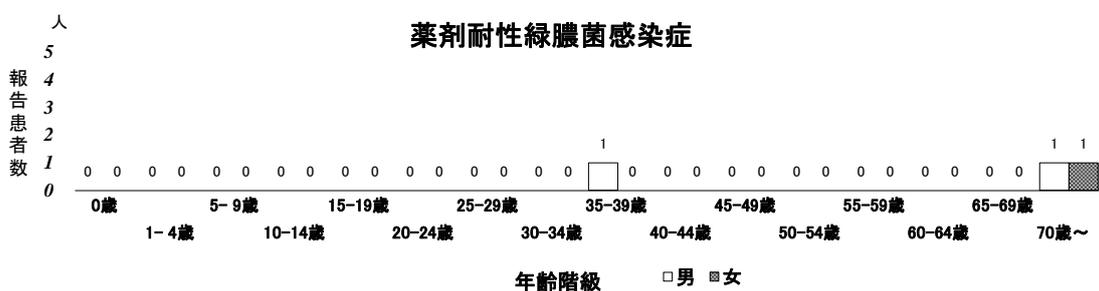


図 27-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）

6 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は1,637人（男性515人、女性1,122人、性比0.46）であった。定点当たり報告患者総数27.89は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.73、最大値2.73の範囲で推移した。報告患者は、男性では20-24歳及び25-29歳が各105人で最も多く、20歳から44歳が80.1%を占めた。女性では20-24歳が395人で最も多く、15歳から34歳が84.0%を占めた。

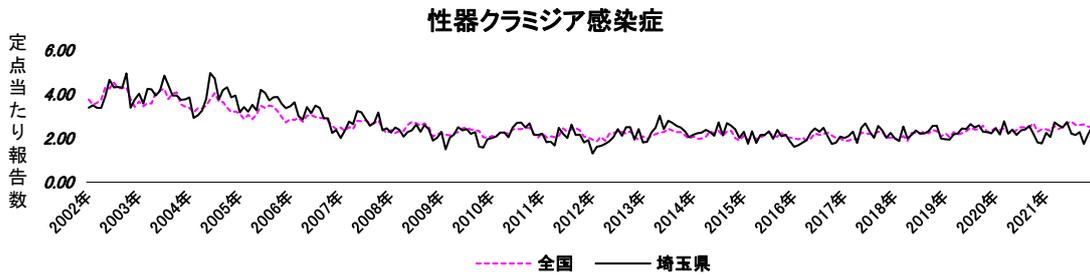


図 28-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：性器クラミジア感染症）

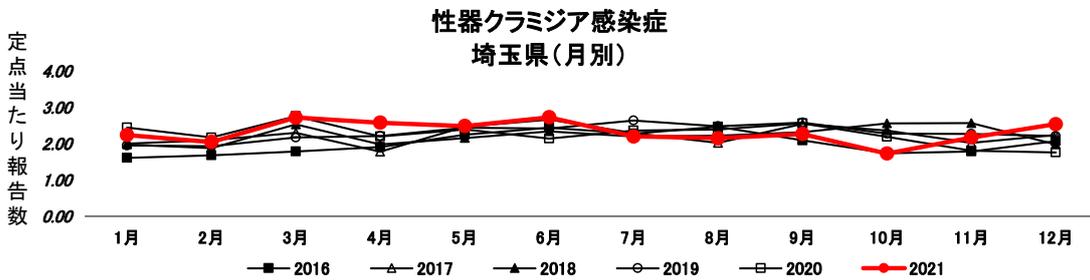


図 28-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：性器クラミジア感染症）

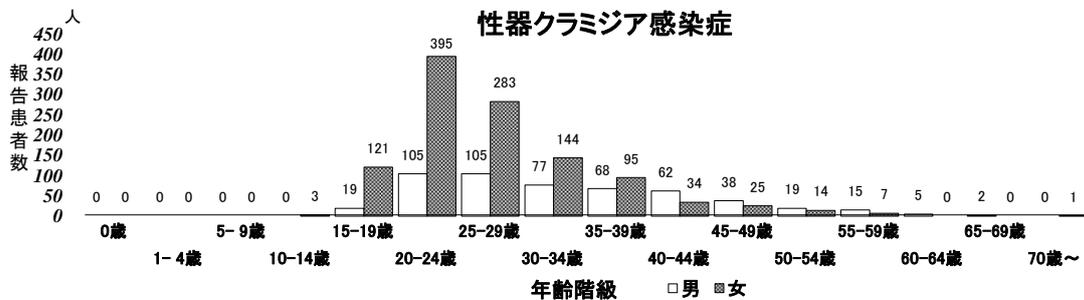


図 28-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：性器クラミジア感染症）

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は496人（男性112人、女性384人、性比0.29）であった。定点当たり報告患者総数8.45は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.54、最大値0.98の範囲で推移した。報告患者は、男性では25-29歳が22人で最も多く、20歳から49歳が75.9%を占めた。女性では20-24歳と30-34歳の各65人及び25-29歳の63人が多く、20歳から39歳が62.5%を占めた。

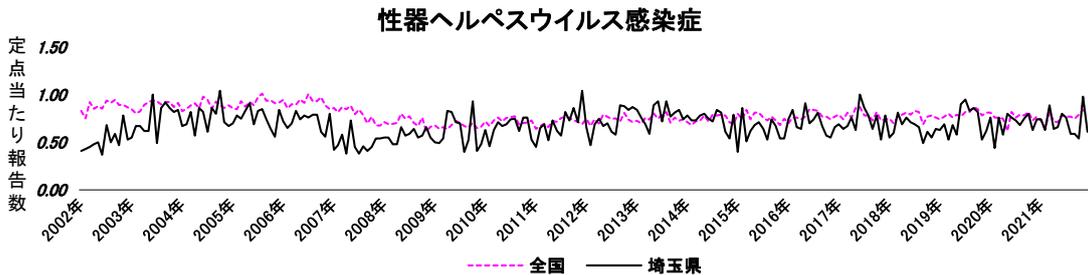


図 29-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：性器ヘルペスウイルス感染症）

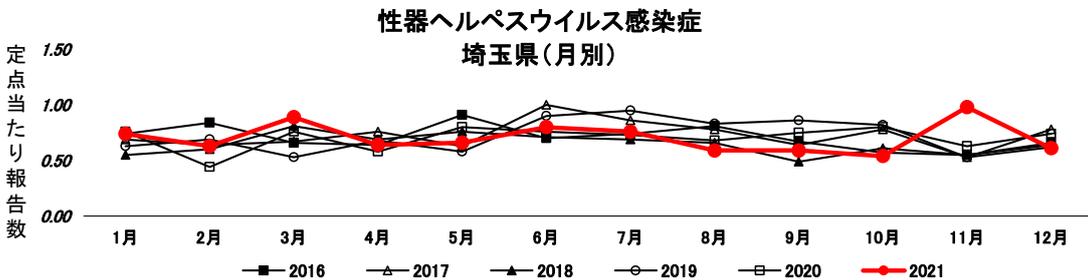


図 29-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症）

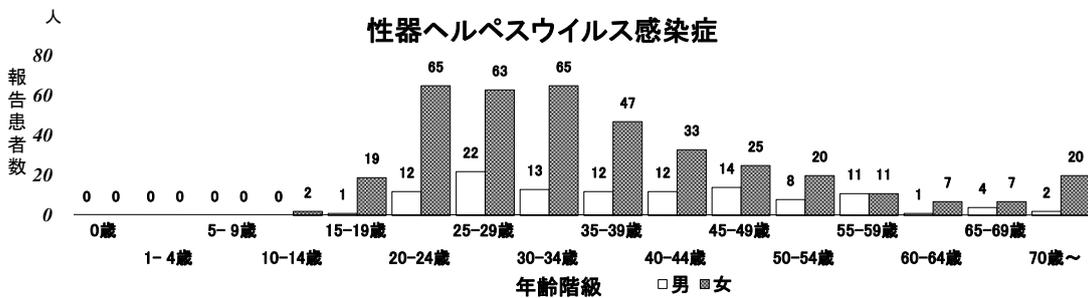


図 29-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症）

3) 尖圭コンジローマ

2021年1月～12月の累積報告患者数は250人(男性96人、女性154人、性比0.62)であった。定点当たり報告患者総数4.26は前年と同水準であった。定点当たり報告患者数は最小値0.27、最大値0.51の範囲で推移した。報告患者は、男性では25-29歳が18人で最も多く、20歳から44歳が66.7%を占めた。女性では20-24歳の41人及び25-29歳の40人が多く、15歳から39歳が83.8%を占めた。

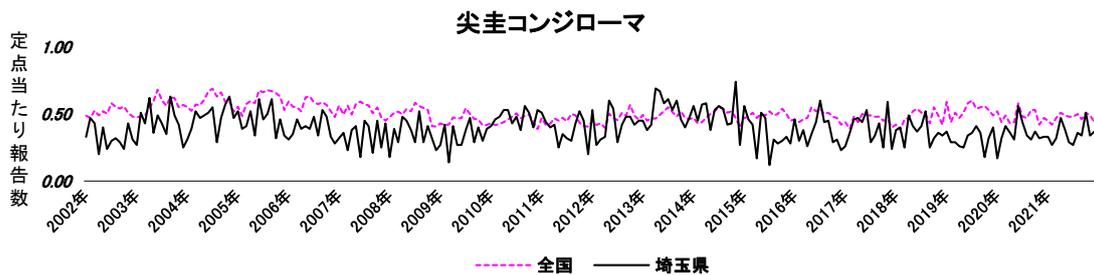


図 30-1 定点当たり報告患者数の年推移 (全国比較：尖圭コンジローマ)

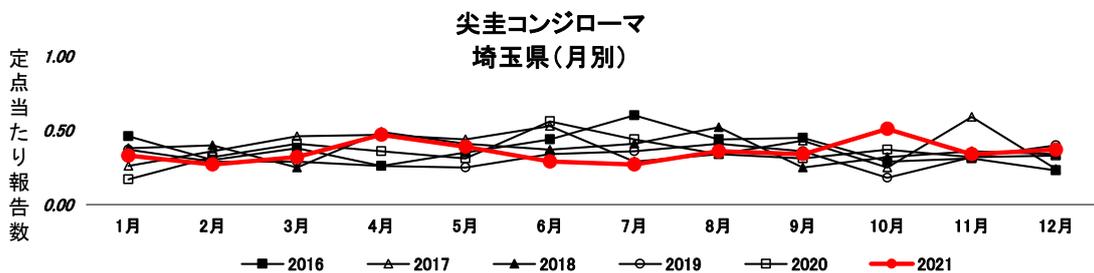


図 30-2 定点当たり報告患者数の推移 (埼玉県：尖圭コンジローマ)

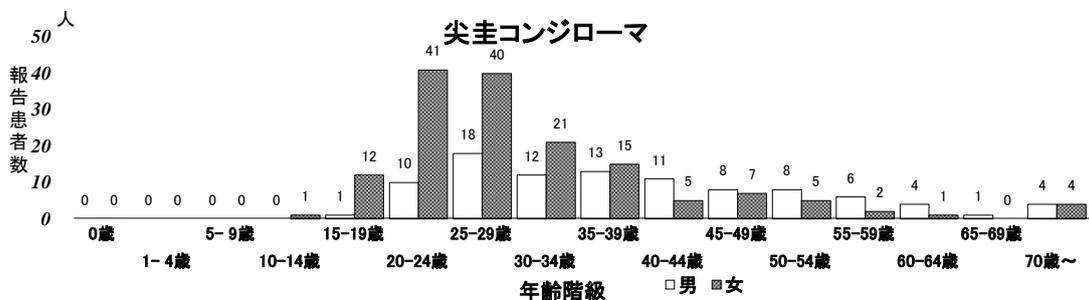


図 30-3 年齢階級別報告患者数 (埼玉県：尖圭コンジローマ)

4) 淋菌感染症

2021年1月～12月の累積報告患者数は434人（男性320人、女性114人、性比2.81）であった。定点当たり報告患者総数7.39は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値0.42、最大値0.95の範囲で推移した。報告患者は、男性では20～24歳が81人で最も多く、20歳から49歳が84.7%を占めた。女性では20～24歳が37人で最も多く、15歳から29歳が66.7%を占めた。

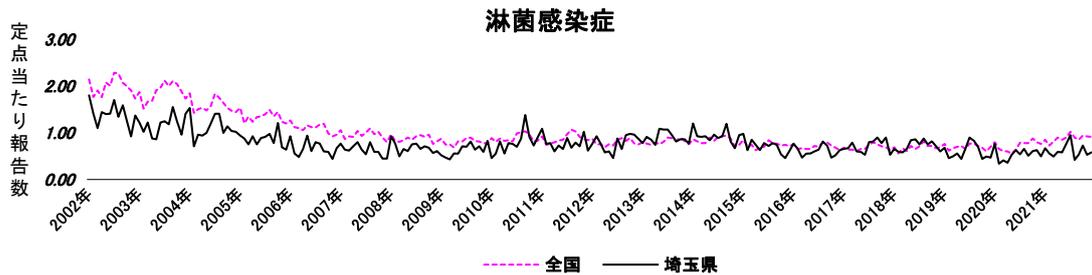


図 31-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：淋菌感染症）

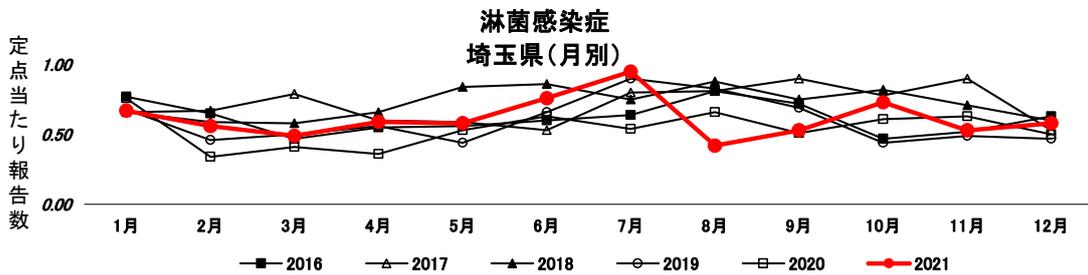


図 31-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：淋菌感染症）

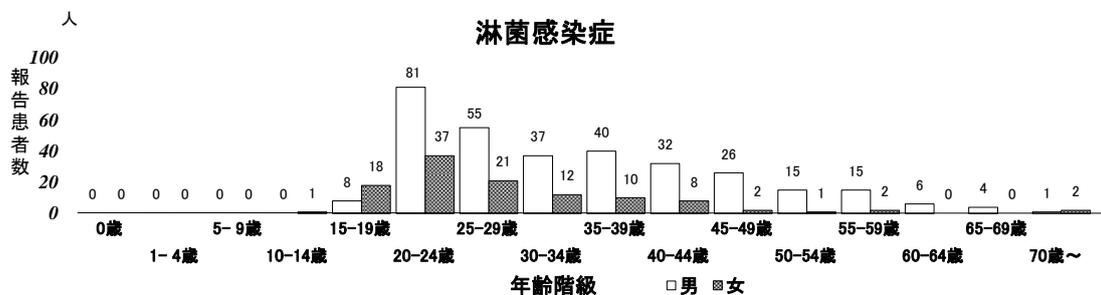


図 31-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：淋菌感染症）

7 定点把握対象疾患の病原体検出情報

1) インフルエンザ

2021年11月及び12月に合計3検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出は、AH3亜型が1件であった。インフルエンザウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが1件であった(表33)。

表33 インフルエンザウイルスの検出状況(2021年)

季節性インフルエンザ		採取月												累計	その他のウイルス	
臨床診断名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ	検体数												2	1	3	
	インフルエンザ AH3												1	1	1	ライノ(1)

2) RSウイルス感染症

23検体が採取され、22件のRSウイルスが検出された。検出されたRSウイルスはRSV-Aが18件、RSV-Bが4件であった。このうち1検体でRSウイルス以外にアデノウイルス2型及びライノウイルスが重複して検出された(表34)。

3) 咽頭結膜熱

6検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス2型が3件であった(表34)。

4) 感染性胃腸炎

37検体が採取され、ノロウイルスが9件、サポウイルスが3件、アストロウイルス及びロタウイルスA群がそれぞれ1件であった。検出されたノロウイルスはすべてG2であった。胃腸炎起因ウイルス以外ではライノウイルスが2件検出された。このうち1検体はノロウイルスと重複して検出された(表34)。

この他に細菌では、*Campylobacter jejuni*が1月、10月、12月にそれぞれ1株、*Escherichia coli*(OUT:H-, eae 遺伝子保有)が7月1株、*Salmonella* Litchfield、*Salmonella* Typhimurium、*Salmonella* Stanleyが8月にそれぞれ1株の計7株が分離された。

5) 手足口病

18検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルスA6型が2件、コクサッキーウイルスA4型が1件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが1件であった(表34)。

6) 伝染性紅斑

1検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表34)。

7) 突発性発しん

3検体が採取された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス6が2件、ヒトヘルペスウイルス7が1件であった(表34)。

8) ヘルパンギーナ

20 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A4 型が 3 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが 2 件、アデノウイルス 2 型が 1 件であった (表 34)。

9) 流行性角結膜炎

6 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 37 型が 3 件、アデノウイルス 64 型が 1 件であった (表 34)。

10) 無菌性髄膜炎

39 例 99 検体が採取され、13 例 15 検体から 18 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、水痘帯状疱疹ウイルスが 4 例 5 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 4 例 4 件、ヒトヘルペスウイルス 6 が 3 例 3 件、ライノウイルスが 2 例 2 件、パレコウイルス、アデノウイルス 5 型、単純ヘルペスウイルス 2 型及びパラインフルエンザウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった。このうちヒトヘルペスウイルス 6、ライノウイルス及びパレコウイルスが 1 検体、アデノウイルス 5 型及びパラインフルエンザウイルス 3 型が 1 検体から重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち 1 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された (表 34)。

表 34 五類定点把握対象疾患(インフルエンザを除く)のウイルス検出状況 (2021 年)

五類定点把握対象疾患 (季節性インフルエンザを除く)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
RSウイルス 感染症	検体数	5	19					2	20	1					23	アデノ 2(1)、ライノ(1)
	RS						1	20	1					22		
咽頭結膜熱	検体数		1	1			1						2	6		
	アデノ 2		1	1									1	3		
感染性胃腸炎	検体数	1		1	1	2	1	6	3	3	2	4	13	37	ライノ(2)	
	ノロ				1		1			1		2	4	9		
	サポ												3	3		
	アストロ ロタ (A)										1		1	1		
手足口病	検体数					3	5	4	1		2	1	2	18	パレコ(1)	
	コクサッキー A4 コクサッキー A6								1				1	2		
伝染性紅斑	検体数							1						1		
突発性発しん	検体数			1		1						1		3		
	ヒトヘルペス 6 ヒトヘルペス 7			1		1						1		2 1		
ヘルパンギーナ	検体数				1	1	3	4	6	2	1	2		20	パレコ(2)、アデノ 2(1)	
	コクサッキー A4								1		1	1		3		
流行性 角結膜炎	検体数						1	1		2			2	6		
	アデノ 37 アデノ 64									1			2	3 1		
無菌性髄膜炎	検体数	4	18	7	12	2	12	6	7	5	9	14	3	99		
	パレコ			1										1		
	ライノ			1								1		2		
	アデノ 5							1						1		
	単純ヘルペス 2						1							1		
	水痘帯状疱疹				1						3			5		
	ヒトヘルペス 6			1	1							1		3		
	ヒトヘルペス 7									1		1		4		
パラインフルエンザ 3		2					1					1	1			

Ⅲ 感染症法第6条第7項第3号に規定する新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の埼玉県及び全国の届出数を表35に示した。埼玉県に届出のあった新型コロナウイルス感染症は、101,396人であった(表35)。

表35 新型コロナウイルス感染症の届出数 (2021年)

疾患名	埼玉県*	全国**
新型コロナウイルス感染症	101,396	1,492,881

* 2022年7月19日集計

** 厚生労働省HP(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)より

1 新型コロナウイルス感染症の患者情報

男性56,055人、女性45,339人の計101,396人(性別不明2人を含む。)の届出があり、前年の14,680人より大幅に増加した。症例の年齢は0歳から100歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、40歳代、30歳代、50歳代の順に多く、20歳代から50歳代が71,800人で全体の70.8%を占めた。性別では、男性56,055人、女性45,339人で、男性が55.3%を占めた。類型別では、患者90,545人、無症状病原体保有者9,422人で、患者が全体の89.3%を占めた(表36)。患者の発生状況は2020年12月から2021年2月に第3波、4月から5月に第4波が観察された。その後、7月から患者数は急増し、日の発症者数のピークが1,738人(8月17日)の第5波が観察された(図32)。

表36 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数 (2021年)

年齢階級	症例数	性別		類型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	不明
10歳未満	5,915	3,039	2,876	4,317	1,548	50
10歳代	11,081	5,847	5,234	9,720	1,252	109
20歳代	25,802	14,338	11,464	23,716	1,681	405
30歳代	16,319*	9,691	6,626	15,085*	997	237
40歳代	16,581	9,746	6,835	15,305	1,060	216
50歳代	13,098	7,215	5,883	12,000	931	167
60歳代	5,312	2,947	2,365	4,632	607	73
70歳代	4,034	2,015	2,019	3,296	673	65
80歳代	2,405	1,014	1,391	1,864	477	64
90歳代	807	195	612	582	185	40
100歳代	37	6	31	25	10	2
不明	5	2	3	3	1	1
合計	101,396	56,055	45,339	90,545	9,422	1,429
割合	100.0%	55.3%	44.7%	89.3%	9.3%	1.4%

*性別不明2人を含む

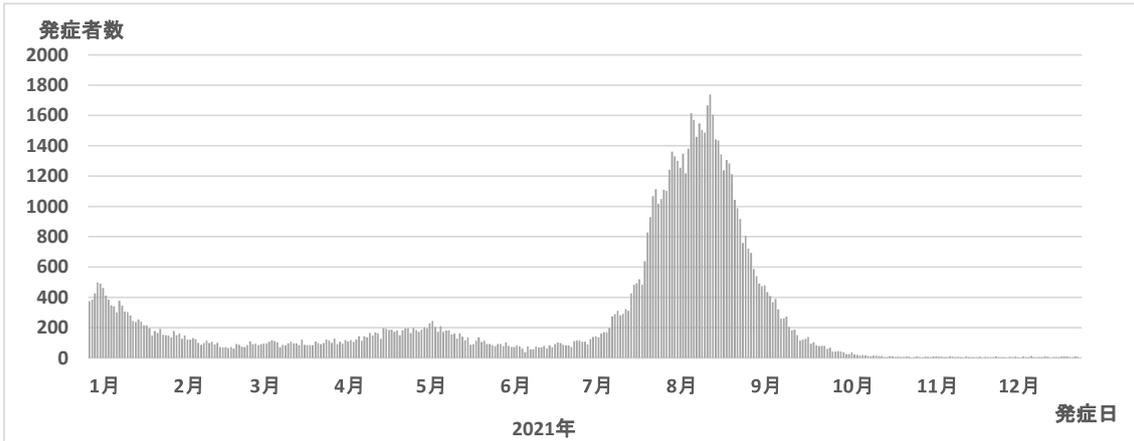


図 32 新型コロナウイルス感染症 日別患者数 (2021 年)

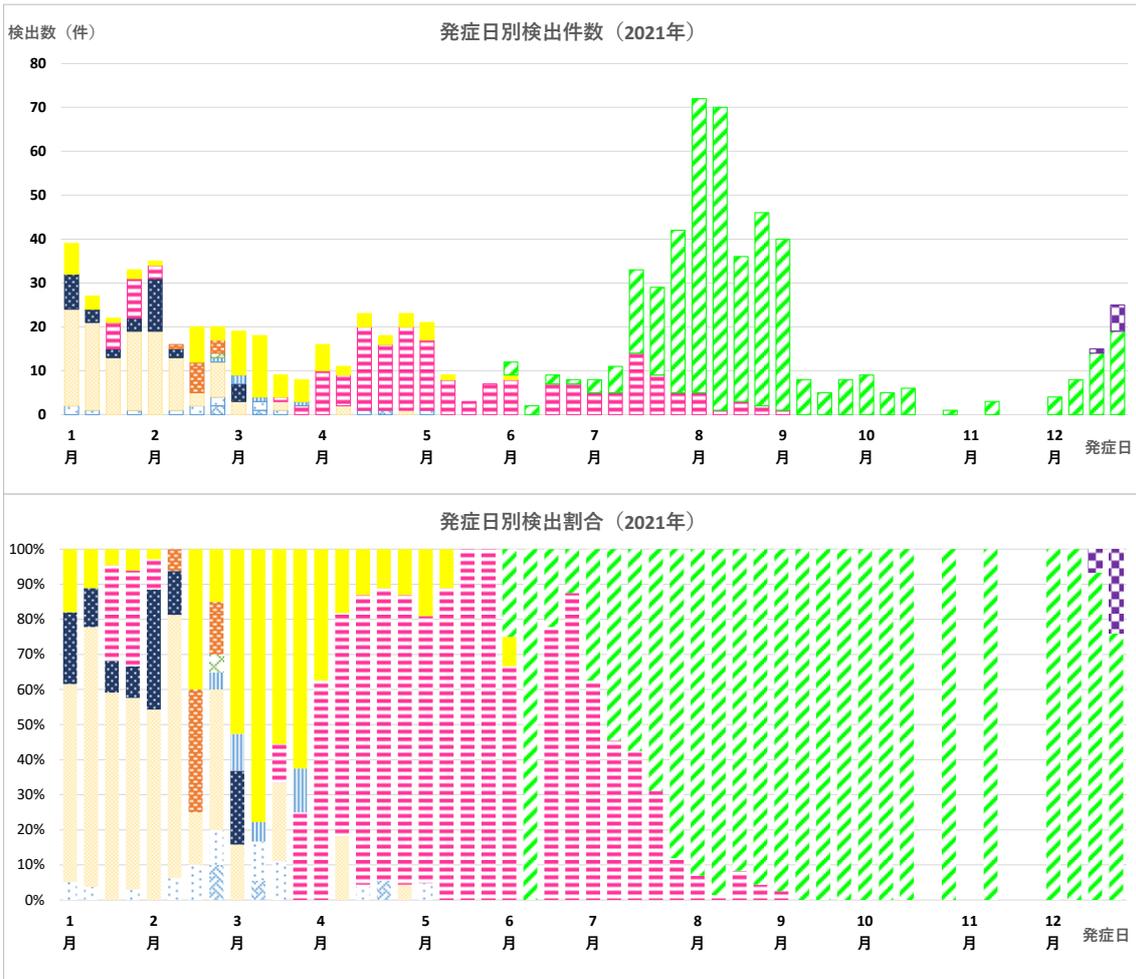
2 新型コロナウイルス感染症の病原体検出状況

58,846 例 58,886 検体が採取され、5,052 例 5,054 件の新型コロナウイルスが検出された（一部陰性確認を含む）（表 37）。

次世代シーケンサー（NGS）によるゲノム解析では、前年から続く第 3 波は R.1 系統など多数の変異株が入り混じっていたが、B.1.1.214 系統が主流であった。第 4 波では、4 月に検出される割合が 80%を超えた B.1.1.7 系統（アルファ株）が主流であった。第 5 波では、8 月に検出される割合が約 90%となった B.1.617.2 系統（デルタ株）が主流であった（図 33）。

表 37 新型コロナウイルス感染症のウイルス検出状況 (2021 年)

臨床診断名	ウイルス	採取日 検体合計数												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
新型コロナ ウイルス感染症	検体数	9,043	4,763	4,815	6,697	6,327	4,643	8,322	7,343	3,831	788	685	1,629	58,886
	新型コロナ	1,151	515	468	567	493	206	446	839	298	42	4	25	5,054



- R.1 (E484K単独)
- P.1 (N501Y ガンマ株)
- B.1 (欧州系統)
- B.1.1.284 (国内第2波主流系統)
- B.1.346
- B.1.1.529 (オミクロン株 BA.1系統)
- B.1.1.7 (N501Y アルファ株)
- B.1.351 (N501Y ベータ株)
- B.1.1 (欧州系統)
- B.1.1.214 (国内第3波主流系統)
- B.1.617.2 (L452R デルタ株)

図 33 新型コロナウイルス ゲノム解析結果 (2021年)

IV 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点把握対象）

2021年埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった。

V 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

獣医師が届出を行う感染症の届出は、埼玉県にはなかった(表38)。

表38 獣医師が届出を行う感染症 対象動物 (2021年)

疾患名	埼玉県	全国*
エボラ出血熱(サル)	-	-
マールブルグ病(サル)	-	-
ペスト(プレーリードッグ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(タヌキ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(ハクビシン)	-	-
結核(サル)	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)(鳥類)	-	4
細菌性赤痢(サル)	-	10
ウエストナイル熱(鳥類)	-	-
エキノコックス症(犬)	-	2
中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)	-	-

*全国は診断週(1~52週)の集計値 (-:0)

資 料

1 感染症発生動向調査事業報告患者数

1) 全数把握対象疾患

別表 1-1 全数把握対象疾患：一類・二類感染症の届出数（2021年）

疾患名		埼玉県	全国*
一類	エボラ出血熱	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-
	痘そう	-	-
	南米出血熱	-	-
	ペスト	-	-
	マールブルグ病	-	-
	ラッサ熱	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-
	結核	834	16,299
	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-

*全国は診断週(1～52週)の集計値 (-0)

別表 1-2 全数把握対象疾患：三類感染症の届出数（2021年）

疾患名		埼玉県	全国*
三類	コレラ	-	-
	細菌性赤痢	-	7
	腸管出血性大腸菌感染症	136	3,243
	腸チフス	2	4
	パラチフス	-	-

*全国は診断週(1～52週)の集計値 (-0)

別表 1-3 全数把握対象疾患：四類感染症の届出数（2021年）

疾患名		埼玉県	全国*
四類	E型肝炎	36	460
	ウエストナイル熱	-	-
	A型肝炎	2	71
	エキノコックス症	-	35
	黄熱	-	-
	オウム病	-	9
	オムスク出血熱	-	-
	回帰熱	-	10
	キャサヌル森林病	-	-
	Q熱	-	1
	狂犬病	-	-
	コクシジオイデス症	-	-
	サル痘	-	-
	ジカウイルス感染症	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	-	110
	腎症候性出血熱	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-
	炭疽	-	-
	チクングニア熱	-	-
	つつが虫病	3	544
	デング熱	-	8
	東部ウマ脳炎	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-
	日本紅斑熱	-	490
	日本脳炎	-	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-
	Bウイルス病	-	-
	鼻疽	-	-
	ブルセラ症	-	1
	ベネズエラウマ脳炎	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-
	発しんチフス	-	-
ポツリヌス症	-	5	
マラリア	2	30	
野兔病	-	-	
ライム病	-	23	
リッサウイルス感染症	-	-	
リフトバレー熱	-	-	
類鼻疽	-	-	
レジオネラ症	99	2,133	
レプトスピラ症	1	34	
ロッキー山紅斑熱	-	-	

*全国は診断週(1~52週)の集計値

(-:0)

別表 1-4 全数把握対象疾患：五類感染症の届出数（2021年）

疾患名		埼玉県	全国*
五類	アメーバ赤痢	19	537
	ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）	10	203
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	95	2,066
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	1	25
	急性脳炎	20	338
	クリプトスポリジウム症	-	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	179
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	622
	後天性免疫不全症候群	28	1,053
	ジアルジア症	4	32
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	194
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	57	1,405
	水痘（入院例）	15	301
	先天性風しん症候群	-	1
	梅毒	287	7,978
	播種性クリプトコックス症	10	163
	破傷風	3	93
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	124
	百日咳	43	707
	風しん	1	12
麻しん	1	6	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	6	

*全国は診断週（1～52週）の集計値 (-:0)

別表 1-5 全数把握対象疾患：獣医師が届出を行う感染症の届出数（2021年）

疾患名	埼玉県	全国*
エボラ出血熱（サル）	-	-
マールブルグ病（サル）	-	-
ペスト（プレーリードッグ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（イタチアナグマ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（タヌキ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（ハクビシン）	-	-
結核（サル）	-	-
鳥インフルエンザ（H5N1又はH7N9）（鳥類）	-	4
細菌性赤痢（サル）	-	10
ウエストナイル熱（鳥類）	-	-
エキノコックス症（犬）	-	2
中東呼吸器症候群（ヒトコブラクダ）	-	-

*全国は診断週（1～52週）の集計値 (-:0)

2) 定点把握対象疾患（週単位報告）

別表 2-1 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：報告患者数（2021年）

年・週	月／日（週開始日）	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
21・1	01/04	1	1	37	60	314	23	3	1	71	3	6
21・2	01/11	3	1	40	56	363	17	1	3	82	2	8
21・3	01/18	1	-	42	69	403	23	5	2	65	1	10
21・4	01/25	-	2	46	111	413	18	1	6	86	3	10
21・5	02/01	3	2	48	109	419	34	2	2	62	2	14
21・6	02/08	2	-	37	83	331	13	4	5	66	3	12
21・7	02/15	-	1	20	74	427	19	3	3	63	1	8
21・8	02/22	3	3	18	77	363	20	2	2	67	1	4
21・9	03/01	1	3	27	88	421	25	-	5	72	1	7
21・10	03/08	1	-	18	83	477	21	1	4	73	2	7
21・11	03/15	1	1	23	90	371	25	1	1	57	3	13
21・12	03/22	1	4	21	63	352	27	2	2	67	4	11
21・13	03/29	1	2	12	54	350	19	2	1	62	1	6
21・14	04/05	1	7	25	53	350	17	4	4	54	1	5
21・15	04/12	2	3	16	75	382	17	5	3	83	-	11
21・16	04/19	3	9	23	82	584	10	3	8	95	3	7
21・17	04/26	-	4	23	106	620	20	4	7	93	1	5
21・18	05/03	-	11	11	45	374	19	3	2	67	-	7
21・19	05/10	-	9	37	72	768	26	8	6	97	2	7
21・20	05/17	1	23	37	65	757	22	9	1	86	6	11
21・21	05/24	-	41	64	76	767	25	9	2	90	4	17
21・22	05/31	-	59	51	75	782	26	21	-	93	6	15
21・23	06/07	-	117	76	77	810	22	20	4	102	5	12
21・24	06/14	-	191	85	83	722	25	15	3	101	5	12
21・25	06/21	-	312	54	74	798	12	18	1	79	8	13
21・26	06/28	-	461	48	81	798	14	14	6	74	10	14
21・27	07/05	-	694	70	64	741	10	12	3	82	25	18
21・28	07/12	-	1,058	45	85	755	21	16	2	54	16	18
21・29	07/19	-	1,000	23	36	484	13	15	4	67	32	15
21・30	07/26	1	927	25	45	578	14	12	1	67	29	24
21・31	08/02	-	906	20	55	439	16	11	1	37	39	15
21・32	08/09	-	607	9	41	252	11	8	1	28	25	14
21・33	08/16	-	425	18	25	340	8	11	-	39	44	10
21・34	08/23	-	541	14	32	350	14	26	1	61	51	11
21・35	08/30	-	423	13	32	398	9	11	3	60	59	7
21・36	09/06	-	290	10	33	399	13	13	1	49	54	10
21・37	09/13	-	218	14	38	418	25	17	3	56	54	6
21・38	09/20	-	141	19	24	358	18	18	6	59	27	10
21・39	09/27	-	77	15	32	359	23	12	2	49	32	15
21・40	10/04	-	54	11	46	415	10	7	3	63	29	14
21・41	10/11	-	36	8	42	488	11	7	-	62	34	18
21・42	10/18	1	33	16	69	502	15	9	2	65	38	12
21・43	10/25	2	21	20	84	564	16	19	3	68	30	13
21・44	11/01	-	18	17	74	573	21	22	2	54	24	8
21・45	11/08	1	5	28	57	738	42	33	1	79	33	5
21・46	11/15	-	6	34	95	979	23	63	3	53	25	12
21・47	11/22	1	15	26	62	1,141	29	56	3	64	41	10
21・48	11/29	2	10	38	59	1,455	42	64	2	53	38	8
21・49	12/06	-	13	45	99	1,800	36	60	4	49	40	7
21・50	12/13	1	27	53	79	1,881	41	62	1	48	50	6
21・51	12/20	1	14	63	70	1,941	27	70	5	47	38	5
21・52	12/27	-	7	30	29	890	14	24	-	22	7	1
2021年計		35	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544
2020年計		29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571
2021年/2020年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0

(-0)

別表 2-2 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：報告患者数（2021年）

年・週	月／日（週開始日）	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎	（入院患者） インフルエンザ
21・1	01/04	-	6	-	1	-	-	-	-
21・2	01/11	-	8	-	1	-	-	-	-
21・3	01/18	1	2	-	-	-	-	-	-
21・4	01/25	-	6	-	-	1	-	-	-
21・5	02/01	2	5	3	3	-	-	-	-
21・6	02/08	1	5	-	-	-	-	-	-
21・7	02/15	-	6	-	1	-	-	-	-
21・8	02/22	-	5	-	1	-	-	1	-
21・9	03/01	-	5	-	-	2	-	1	-
21・10	03/08	-	6	-	-	1	-	-	-
21・11	03/15	-	4	-	1	1	-	-	-
21・12	03/22	-	5	1	-	-	-	-	1
21・13	03/29	-	5	-	-	-	-	-	-
21・14	04/05	1	9	-	-	-	-	-	-
21・15	04/12	2	9	1	-	-	-	-	-
21・16	04/19	1	10	-	2	-	-	-	-
21・17	04/26	-	8	-	-	-	-	-	-
21・18	05/03	1	9	1	-	-	-	-	-
21・19	05/10	-	7	-	-	-	-	1	-
21・20	05/17	2	9	-	-	-	-	-	-
21・21	05/24	-	11	-	-	-	-	-	-
21・22	05/31	-	10	-	-	-	-	-	-
21・23	06/07	-	11	-	1	-	-	-	-
21・24	06/14	-	18	1	1	1	-	-	-
21・25	06/21	-	14	-	1	-	-	-	-
21・26	06/28	-	7	-	1	-	-	-	-
21・27	07/05	1	8	-	1	-	-	-	-
21・28	07/12	3	14	-	-	-	-	-	-
21・29	07/19	2	7	-	-	-	-	-	-
21・30	07/26	2	6	1	1	1	-	-	-
21・31	08/02	2	13	-	1	-	-	-	-
21・32	08/09	1	1	-	1	1	-	-	-
21・33	08/16	-	7	-	-	-	-	-	-
21・34	08/23	-	6	-	-	1	-	-	-
21・35	08/30	-	7	-	-	-	-	-	-
21・36	09/06	2	4	-	-	-	-	-	-
21・37	09/13	-	7	-	-	-	-	-	-
21・38	09/20	-	5	-	2	-	-	-	-
21・39	09/27	-	7	-	1	-	-	-	-
21・40	10/04	1	15	-	-	1	-	-	-
21・41	10/11	-	6	-	-	-	-	-	-
21・42	10/18	-	7	-	2	-	-	-	-
21・43	10/25	-	8	1	1	-	-	-	-
21・44	11/01	-	13	-	-	-	-	-	-
21・45	11/08	1	10	-	-	-	-	-	-
21・46	11/15	1	3	-	-	-	-	-	-
21・47	11/22	-	4	1	2	-	-	-	-
21・48	11/29	-	8	-	-	-	-	-	-
21・49	12/06	-	6	-	-	-	-	-	-
21・50	12/13	1	10	-	1	-	-	-	-
21・51	12/20	1	9	-	-	-	-	-	-
21・52	12/27	-	-	1	-	-	-	-	-
2021年	計	29	391	11	27	10	-	3	1
2020年	計	39	560	12	22	87	-	1	131
2021年/2020年	比	0.7	0.7	0.9	1.2	0.1	-	3.0	0.0

(--0)

別表 2-3 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：定点当たり報告患者数（2021年）

年・週	月／日へ週開始日へ	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A 群溶血性球菌性咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
21・1	01/04	-	0.01	0.24	0.39	2.03	0.15	0.02	0.01	0.46	0.02	0.04
21・2	01/11	0.01	0.01	0.25	0.35	2.27	0.11	0.01	0.02	0.51	0.01	0.05
21・3	01/18	-	-	0.26	0.43	2.50	0.14	0.03	0.01	0.40	0.01	0.06
21・4	01/25	-	0.01	0.29	0.69	2.58	0.11	0.01	0.04	0.54	0.02	0.06
21・5	02/01	0.01	0.01	0.30	0.68	2.60	0.21	0.01	0.01	0.39	0.01	0.09
21・6	02/08	0.01	-	0.23	0.52	2.07	0.08	0.03	0.03	0.41	0.02	0.08
21・7	02/15	-	0.01	0.13	0.47	2.72	0.12	0.02	0.02	0.40	0.01	0.05
21・8	02/22	0.01	0.02	0.11	0.48	2.28	0.13	0.01	0.01	0.42	0.01	0.03
21・9	03/01	-	0.02	0.17	0.55	2.63	0.16	-	0.03	0.45	0.01	0.04
21・10	03/08	-	-	0.11	0.52	2.98	0.13	0.01	0.03	0.46	0.01	0.04
21・11	03/15	-	0.01	0.14	0.56	2.30	0.16	0.01	0.01	0.35	0.02	0.08
21・12	03/22	-	0.02	0.13	0.39	2.17	0.17	0.01	0.01	0.41	0.02	0.07
21・13	03/29	-	0.01	0.07	0.34	2.17	0.12	0.01	0.01	0.39	0.01	0.04
21・14	04/05	-	0.04	0.16	0.33	2.19	0.11	0.03	0.03	0.34	0.01	0.03
21・15	04/12	0.01	0.02	0.10	0.46	2.36	0.10	0.03	0.02	0.51	-	0.07
21・16	04/19	0.01	0.06	0.14	0.51	3.60	0.06	0.02	0.05	0.59	0.02	0.04
21・17	04/26	-	0.03	0.15	0.71	4.16	0.13	0.03	0.05	0.62	0.01	0.03
21・18	05/03	-	0.07	0.07	0.28	2.35	0.12	0.02	0.01	0.42	-	0.04
21・19	05/10	-	0.06	0.23	0.45	4.83	0.16	0.05	0.04	0.61	0.01	0.04
21・20	05/17	-	0.14	0.23	0.40	4.70	0.14	0.06	0.01	0.53	0.04	0.07
21・21	05/24	-	0.26	0.40	0.48	4.79	0.16	0.06	0.01	0.56	0.03	0.11
21・22	05/31	-	0.37	0.32	0.47	4.86	0.16	0.13	-	0.58	0.04	0.09
21・23	06/07	-	0.73	0.47	0.48	5.03	0.14	0.12	0.02	0.63	0.03	0.07
21・24	06/14	-	1.18	0.52	0.51	4.46	0.15	0.09	0.02	0.62	0.03	0.07
21・25	06/21	-	1.93	0.33	0.46	4.93	0.07	0.11	0.01	0.49	0.05	0.08
21・26	06/28	-	2.90	0.30	0.51	5.02	0.09	0.09	0.04	0.47	0.06	0.09
21・27	07/05	-	4.28	0.43	0.40	4.57	0.06	0.07	0.02	0.51	0.15	0.11
21・28	07/12	-	6.49	0.28	0.52	4.63	0.13	0.10	0.01	0.33	0.10	0.11
21・29	07/19	-	6.13	0.14	0.22	2.97	0.08	0.09	0.02	0.41	0.20	0.09
21・30	07/26	-	5.72	0.15	0.28	3.57	0.09	0.07	0.01	0.41	0.18	0.15
21・31	08/02	-	6.12	0.14	0.37	2.97	0.11	0.07	0.01	0.25	0.26	0.10
21・32	08/09	-	4.37	0.06	0.29	1.81	0.08	0.06	0.01	0.20	0.18	0.10
21・33	08/16	-	2.71	0.11	0.16	2.17	0.05	0.07	-	0.25	0.28	0.06
21・34	08/23	-	3.36	0.09	0.20	2.17	0.09	0.16	0.01	0.38	0.32	0.07
21・35	08/30	-	2.63	0.08	0.20	2.47	0.06	0.07	0.02	0.37	0.37	0.04
21・36	09/06	-	1.80	0.06	0.20	2.48	0.08	0.08	0.01	0.30	0.34	0.06
21・37	09/13	-	1.41	0.09	0.25	2.70	0.16	0.11	0.02	0.36	0.35	0.04
21・38	09/20	-	0.88	0.12	0.15	2.22	0.11	0.11	0.04	0.37	0.17	0.06
21・39	09/27	-	0.48	0.09	0.20	2.23	0.14	0.07	0.01	0.30	0.20	0.09
21・40	10/04	-	0.34	0.07	0.29	2.58	0.06	0.04	0.02	0.39	0.18	0.09
21・41	10/11	-	0.22	0.05	0.26	3.01	0.07	0.04	-	0.38	0.21	0.11
21・42	10/18	-	0.20	0.10	0.43	3.10	0.09	0.06	0.01	0.40	0.23	0.07
21・43	10/25	0.01	0.13	0.13	0.53	3.53	0.10	0.12	0.02	0.43	0.19	0.08
21・44	11/01	-	0.11	0.10	0.46	3.54	0.13	0.14	0.01	0.33	0.15	0.05
21・45	11/08	-	0.03	0.17	0.35	4.53	0.26	0.20	0.01	0.48	0.20	0.03
21・46	11/15	-	0.04	0.21	0.58	6.01	0.14	0.39	0.02	0.33	0.15	0.07
21・47	11/22	-	0.09	0.16	0.38	7.04	0.18	0.35	0.02	0.40	0.25	0.06
21・48	11/29	0.01	0.06	0.24	0.37	9.09	0.26	0.40	0.01	0.33	0.24	0.05
21・49	12/06	-	0.08	0.28	0.61	11.18	0.22	0.37	0.02	0.30	0.25	0.04
21・50	12/13	-	0.17	0.33	0.48	11.54	0.25	0.38	0.01	0.29	0.31	0.04
21・51	12/20	-	0.09	0.39	0.43	11.91	0.17	0.43	0.03	0.29	0.23	0.03
21・52	12/27	-	0.04	0.19	0.18	5.67	0.09	0.15	-	0.14	0.04	0.01
2021年	計	0.14	55.55	10.21	21.31	206.00	6.67	5.27	0.89	21.65	6.24	3.42
2020年	計	116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59
2021年/2020年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0

(--0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 2-4 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：定点当たり報告患者数（2021年）

年・週	月 / 日（週開始日）	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
21・1	01/04	-	0.15	-	0.09	-	-	-	-
21・2	01/11	-	0.21	-	0.09	-	-	-	-
21・3	01/18	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-
21・4	01/25	-	0.15	-	-	0.09	-	-	-
21・5	02/01	0.05	0.13	0.27	0.27	-	-	-	-
21・6	02/08	0.03	0.13	-	-	-	-	-	-
21・7	02/15	-	0.15	-	0.09	-	-	-	-
21・8	02/22	-	0.13	-	0.09	-	-	0.09	-
21・9	03/01	-	0.12	-	-	0.18	-	0.09	-
21・10	03/08	-	0.15	-	-	0.09	-	-	-
21・11	03/15	-	0.10	-	0.09	0.09	-	-	-
21・12	03/22	-	0.13	0.09	-	-	-	-	0.09
21・13	03/29	-	0.13	-	-	-	-	-	-
21・14	04/05	0.03	0.23	-	-	-	-	-	-
21・15	04/12	0.05	0.23	0.09	-	-	-	-	-
21・16	04/19	0.03	0.25	-	0.18	-	-	-	-
21・17	04/26	-	0.22	-	-	-	-	-	-
21・18	05/03	0.02	0.22	0.09	-	-	-	-	-
21・19	05/10	-	0.18	-	-	-	-	0.09	-
21・20	05/17	0.05	0.23	-	-	-	-	-	-
21・21	05/24	-	0.27	-	-	-	-	-	-
21・22	05/31	-	0.24	-	-	-	-	-	-
21・23	06/07	-	0.27	-	0.09	-	-	-	-
21・24	06/14	-	0.44	0.09	0.09	0.09	-	-	-
21・25	06/21	-	0.34	-	0.09	-	-	-	-
21・26	06/28	-	0.18	-	0.09	-	-	-	-
21・27	07/05	0.03	0.20	-	0.09	-	-	-	-
21・28	07/12	0.07	0.34	-	-	-	-	-	-
21・29	07/19	0.05	0.17	-	-	-	-	-	-
21・30	07/26	0.05	0.15	0.09	0.09	0.09	-	-	-
21・31	08/02	0.06	0.39	-	0.09	-	-	-	-
21・32	08/09	0.03	0.03	-	0.09	0.09	-	-	-
21・33	08/16	-	0.18	-	-	-	-	-	-
21・34	08/23	-	0.15	-	-	0.09	-	-	-
21・35	08/30	-	0.18	-	-	-	-	-	-
21・36	09/06	0.05	0.10	-	-	-	-	-	-
21・37	09/13	-	0.19	-	-	-	-	-	-
21・38	09/20	-	0.13	-	0.18	-	-	-	-
21・39	09/27	-	0.17	-	0.09	-	-	-	-
21・40	10/04	0.02	0.37	-	-	0.09	-	-	-
21・41	10/11	-	0.15	-	-	-	-	-	-
21・42	10/18	-	0.17	-	0.18	-	-	-	-
21・43	10/25	-	0.20	0.09	0.09	-	-	-	-
21・44	11/01	-	0.33	-	-	-	-	-	-
21・45	11/08	0.02	0.24	-	-	-	-	-	-
21・46	11/15	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-
21・47	11/22	-	0.10	0.09	0.18	-	-	-	-
21・48	11/29	-	0.20	-	-	-	-	-	-
21・49	12/06	-	0.15	-	-	-	-	-	-
21・50	12/13	0.02	0.24	-	0.09	-	-	-	-
21・51	12/20	0.03	0.23	-	-	-	-	-	-
21・52	12/27	-	-	0.09	-	-	-	-	-
2021年	計	0.74	10.03	1.00	2.45	0.91	-	0.27	0.09
2020年	計	1.00	14.36	1.09	2.00	7.91	-	0.09	11.91
2021年/2020年	比	0.7	0.7	0.9	1.2	0.1	-	3.0	0.0

(--0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 2-5 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
-6カ月	-	-6カ月	679	5	1	201	10	7	-	44	3	1
-12カ月	1	-12カ月	1021	104	8	1474	25	60	14	853	59	4
1歳	1	1歳	2615	570	167	4860	69	341	32	1919	283	13
2歳	4	2歳	2206	363	343	4604	54	212	22	445	266	23
3歳	2	3歳	1302	223	338	3951	67	83	10	131	181	46
4歳	2	4歳	641	137	405	3306	115	45	16	50	83	83
5歳	3	5歳	265	89	423	2683	105	39	15		48	97
6歳	-	6歳	58	44	338	2041	122	17	7		28	74
7歳	1	7歳	17	18	278	1453	113	10	8		7	52
8歳	1	8歳	7	10	255	1261	104	6	5		5	48
9歳	2	9歳	6	13	197	1074	86	3	1		4	37
10-14歳	3	10-14歳	9	25	391	2953	173	12	8		19	62
15-19歳	3	15-19歳	-	4	49	570	9	-	2		1	4
20-29歳	2	20歳以上	7	18	195	2323	9	3	1		5	-
30-39歳	4											
40-49歳	-											
50-59歳	3											
60-69歳	1											
70-79歳	-											
80歳以上	2											
合計	35	合計	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544

(-0)

別表 2-6 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
-6カ月	-	1	0歳	2	4	-	-	-	-
-12カ月	-	-	1-4歳	-	1	-	-	2	-
1歳	5	5	5-9歳	-	2	2	-	-	-
2歳	2	5	10-14歳	-	1	1	-	-	-
3歳	1	8	15-19歳	-	2	2	-	-	-
4歳	-	9	20-24歳	1	2	-	-	-	-
5歳	-	7	25-29歳	-	2	-	-	-	-
6歳	-	4	30-34歳	-	-	1	-	-	-
7歳	-	3	35-39歳	-	2	-	-	-	-
8歳	-	4	40-44歳	1	2	-	-	-	-
9歳	-	4	45-49歳	-	-	3	-	-	-
10-14歳	2	9	50-54歳	-	3	-	-	-	-
15-19歳	1	19	55-59歳	1	1	-	-	-	-
20-29歳	7	80	60-64歳	-	2	-	-	-	-
30-39歳	3	68	65-69歳	3	-	-	-	1	-
40-49歳	1	67	70歳以上	3	3	1	-	-	1
50-59歳	4	52							
60-69歳	2	31							
70歳以上	1	15							
合計	29	391	合計	11	27	10	-	3	1

(-0)

3) 定点把握対象疾患（月単位報告）

別表 3-1 性感染症定点把握対象疾患：報告患者数（2021年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数
1月	130	2.24	43	0.74	19	0.33	39	0.67
2月	121	2.05	37	0.63	16	0.27	33	0.56
3月	155	2.72	51	0.89	18	0.32	28	0.49
4月	152	2.58	38	0.64	28	0.47	35	0.59
5月	147	2.49	39	0.66	23	0.39	34	0.58
6月	161	2.73	47	0.80	17	0.29	45	0.76
7月	130	2.20	45	0.76	16	0.27	56	0.95
8月	127	2.15	35	0.59	21	0.36	25	0.42
9月	134	2.27	35	0.59	20	0.34	31	0.53
10月	102	1.73	32	0.54	30	0.51	43	0.73
11月	128	2.17	58	0.98	20	0.34	31	0.53
12月	150	2.54	36	0.61	22	0.37	34	0.58
2021年計	1,637	27.89	496	8.45	250	4.26	434	7.39
2020年計	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
2021年/2020年比	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-2 基幹定点把握対象疾患：報告患者数（2021年）

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数
1月	10	0.91	-	-	-	-
2月	18	1.64	4	0.36	-	-
3月	14	1.27	3	0.27	1	0.09
4月	17	1.55	4	0.36	-	-
5月	17	1.55	2	0.18	1	0.09
6月	13	1.18	-	-	1	0.09
7月	10	0.91	4	0.36	-	-
8月	21	1.91	-	-	-	-
9月	36	3.27	-	-	-	-
10月	36	3.27	1	0.09	-	-
11月	31	2.82	1	0.09	-	-
12月	23	2.09	2	0.18	-	-
2021年計	246	22.36	21	1.91	3	0.27
2020年計	160	14.55	28	2.55	6	0.55
2021年/2020年比	1.5	1.5	0.8	0.8	0.5	0.5

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-3 性感染症定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	3	0.2%	2	0.4%	1	0.4%	1	0.2%
15-19歳	140	8.6%	20	4.0%	13	5.2%	26	6.0%
20-24歳	500	30.5%	77	15.5%	51	20.4%	118	27.2%
25-29歳	388	23.7%	85	17.1%	58	23.2%	76	17.5%
30-34歳	221	13.5%	78	15.7%	33	13.2%	49	11.3%
35-39歳	163	10.0%	59	11.9%	28	11.2%	50	11.5%
40-44歳	96	5.9%	45	9.1%	16	6.4%	40	9.2%
45-49歳	63	3.8%	39	7.9%	15	6.0%	28	6.5%
50-54歳	33	2.0%	28	5.6%	13	5.2%	16	3.7%
55-59歳	22	1.3%	22	4.4%	8	3.2%	17	3.9%
60-64歳	5	0.3%	8	1.6%	5	2.0%	6	1.4%
65-69歳	2	0.1%	11	2.2%	1	0.4%	4	0.9%
70歳～	1	0.1%	22	4.4%	8	3.2%	3	0.7%
合計	1,637	100.0%	496	100.0%	250	100.0%	434	100.0%

(-:0)

別表 3-4 基幹定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)
0歳	6	2.4%	1	4.8%	-	-
1-4歳	4	1.6%	1	4.8%	-	-
5-9歳	1	0.4%	1	4.8%	-	-
10-14歳	2	0.8%	-	-	-	-
15-19歳	1	0.4%	-	-	-	-
20-24歳	4	1.6%	-	-	-	-
25-29歳	-	-	1	4.8%	-	-
30-34歳	3	1.2%	1	4.8%	-	-
35-39歳	2	0.8%	1	4.8%	1	33.3%
40-44歳	2	0.8%	-	-	-	-
45-49歳	4	1.6%	-	-	-	-
50-54歳	9	3.7%	1	4.8%	-	-
55-59歳	14	5.7%	-	-	-	-
60-64歳	6	2.4%	2	9.5%	-	-
65-69歳	11	4.5%	2	9.5%	-	-
70歳～	177	72.0%	10	47.6%	2	66.7%
合計	246	100.0%	21	100.0%	3	100.0%

(-:0)

別表 3-5 性感染症定点把握対象疾患：性別年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	-	3	-	2	-	1	-	1
15-19歳	19	121	1	19	1	12	8	18
20-24歳	105	395	12	65	10	41	81	37
25-29歳	105	283	22	63	18	40	55	21
30-34歳	77	144	13	65	12	21	37	12
35-39歳	68	95	12	47	13	15	40	10
40-44歳	62	34	12	33	11	5	32	8
45-49歳	38	25	14	25	8	7	26	2
50-54歳	19	14	8	20	8	5	15	1
55-59歳	15	7	11	11	6	2	15	2
60-64歳	5	-	1	7	4	1	6	-
65-69歳	2	-	4	7	1	-	4	-
70歳～	-	1	2	20	4	4	1	2
合計	515	1,122	112	384	96	154	320	114
男女比	0.46	1.00	0.29	1.00	0.62	1.00	2.81	1.00

(-:0)

別表 3-6 基幹定点把握対象疾患：性別年齢階級別報告患者数（2021年）

年齢	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	2	4	1	-	-	-
1-4歳	3	1	1	-	-	-
5-9歳	-	1	1	-	-	-
10-14歳	1	1	-	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-
20-24歳	1	3	-	-	-	-
25-29歳	-	-	1	-	-	-
30-34歳	1	2	-	1	-	-
35-39歳	2	-	1	-	1	-
40-44歳	1	1	-	-	-	-
45-49歳	1	3	-	-	-	-
50-54歳	5	4	-	1	-	-
55-59歳	9	5	-	-	-	-
60-64歳	5	1	1	1	-	-
65-69歳	8	3	2	-	-	-
70歳～	112	65	7	3	1	1
合計	152	94	15	6	2	1
男女比	1.62	1.00	2.50	1.00	2.00	1.00

(-:0)

別表 3-7 性感染症定点把握対象疾患：性別報告患者数（2021 年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	43	87	5	38	9	10	31	8
2月	40	81	7	30	5	11	22	11
3月	45	110	12	39	7	11	19	9
4月	45	107	5	33	14	14	27	8
5月	50	97	9	30	12	11	22	12
6月	44	117	9	38	5	12	31	14
7月	39	91	10	35	2	14	42	14
8月	46	81	5	30	8	13	14	11
9月	41	93	14	21	9	11	27	4
10月	36	66	8	24	12	18	39	4
11月	40	88	16	42	4	16	22	9
12月	46	104	12	24	9	13	24	10
合計	515	1,122	112	384	96	154	320	114

(-:0)

別表 3-8 基幹定点把握対象疾患：性別報告患者数（2021 年）

月別	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	6	4	-	-	-	-
2月	10	8	2	2	-	-
3月	11	3	2	1	-	1
4月	4	13	4	-	-	-
5月	11	6	2	-	1	-
6月	10	3	-	-	1	-
7月	7	3	3	1	-	-
8月	17	4	-	-	-	-
9月	24	12	-	-	-	-
10月	21	15	-	1	-	-
11月	19	12	-	1	-	-
12月	12	11	2	-	-	-
合計	152	94	15	6	2	1

(-:0)

別表 3-9 性感染症定点把握対象疾患：性別定点当たり報告患者数（2021 年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	0.74	1.50	0.09	0.66	0.16	0.17	0.53	0.14
2月	0.68	1.37	0.12	0.51	0.08	0.19	0.37	0.19
3月	0.79	1.93	0.21	0.68	0.12	0.19	0.33	0.16
4月	0.76	1.81	0.08	0.56	0.24	0.24	0.46	0.14
5月	0.85	1.64	0.15	0.51	0.20	0.19	0.37	0.20
6月	0.75	1.98	0.15	0.64	0.08	0.20	0.53	0.24
7月	0.66	1.54	0.17	0.59	0.03	0.24	0.71	0.24
8月	0.78	1.37	0.08	0.51	0.14	0.22	0.24	0.19
9月	0.69	1.58	0.24	0.36	0.15	0.19	0.46	0.07
10月	0.61	1.12	0.14	0.41	0.20	0.31	0.66	0.07
11月	0.68	1.49	0.27	0.71	0.07	0.27	0.37	0.15
12月	0.78	1.76	0.20	0.41	0.15	0.22	0.41	0.17

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-10 基幹定点把握対象疾患：性別定点当たり報告患者数（2021 年）

月別	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	0.55	0.36	-	-	-	-
2月	0.91	0.73	0.18	0.18	-	-
3月	1.00	0.27	0.18	0.09	-	0.09
4月	0.36	1.18	0.36	-	-	-
5月	1.00	0.55	0.18	-	0.09	-
6月	0.91	0.27	-	-	0.09	-
7月	0.64	0.27	0.27	0.09	-	-
8月	1.55	0.36	-	-	-	-
9月	2.18	1.09	-	-	-	-
10月	1.91	1.36	-	0.09	-	-
11月	1.73	1.09	-	0.09	-	-
12月	1.09	1.00	0.18	-	-	-

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

4) 新型コロナウイルス感染症

別表 4 新型コロナウイルス感染症の届出数 (2021 年)

疾患名	埼玉県*	全国**
新型コロナウイルス感染症	101,396	1,492,881

* 2022年7月19日集計

** 厚生労働省HP(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)より

2 年報告患者の集計方法

1) 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、発生届の診断日が当該年の1月1日から12月31日に属する届出を集計し当該年の届出数とした。

2) 定点把握対象疾患

定点把握対象疾患のうち、週単位報告疾患は当該年の第1週から最終週(52週)、月単位報告疾患は1月から12月の報告を集計し、当該年の累積報告患者数とした。また、定点当たり報告患者総数は、累積報告患者数を平均定点数で除した値とした。なお、平均定点数は、インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て、性感染症定点数・基幹定点数は小数点第2位以下を切り捨てた。

また、図表中に示した百分率の合計は、四捨五入の関係で100%にならないことがある。

2021年 感染症発生動向調査 報告週対応表

週	1月							週	2月							週	3月						
No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日
53				1	2	3		5	1	2	3	4	5	6	7	9	1	2	3	4	5	6	7
1	4	5	6	7	8	9	10	6	8	9	10	11	12	13	14	10	8	9	10	11	12	13	14
2	11	12	13	14	15	16	17	7	15	16	17	18	19	20	21	11	15	16	17	18	19	20	21
3	18	19	20	21	22	23	24	8	22	23	24	25	26	27	28	12	22	23	24	25	26	27	28
4	25	26	27	28	29	30	31									13	29	30	31				
週	4月							週	5月							週	6月						
No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日
13				1	2	3	4	17						1	2	22		1	2	3	4	5	6
14	5	6	7	8	9	10	11	18	3	4	5	6	7	8	9	23	7	8	9	10	11	12	13
15	12	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	24	14	15	16	17	18	19	20
16	19	20	21	22	23	24	25	20	17	18	19	20	21	22	23	25	21	22	23	24	25	26	27
17	26	27	28	29	30			21	24	25	26	27	28	29	30	26	28	29	30				
								22	31														
週	7月							週	8月							週	9月						
No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日
26				1	2	3	4	30						1		35		1	2	3	4	5	
27	5	6	7	8	9	10	11	31	2	3	4	5	6	7	8	36	6	7	8	9	10	11	12
28	12	13	14	15	16	17	18	32	9	10	11	12	13	14	15	37	13	14	15	16	17	18	19
29	19	20	21	22	23	24	25	33	16	17	18	19	20	21	22	38	20	21	22	23	24	25	26
30	26	27	28	29	30	31		34	23	24	25	26	27	28	29	39	27	28	29	30			
								35	30	31													
週	10月							週	11月							週	12月						
No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日	No.	月	火	水	木	金	土	日
39				1	2	3		44	1	2	3	4	5	6	7	48		1	2	3	4	5	
40	4	5	6	7	8	9	10	45	8	9	10	11	12	13	14	49	6	7	8	9	10	11	12
41	11	12	13	14	15	16	17	46	15	16	17	18	19	20	21	50	13	14	15	16	17	18	19
42	18	19	20	21	22	23	24	47	22	23	24	25	26	27	28	51	20	21	22	23	24	25	26
43	25	26	27	28	29	30	31	48	29	30						52	27	28	29	30	31		

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

—新型コロナウイルス感染症検査状況(2020年)続報—

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、サーズコロナウイルス2(SARS-CoV-2)による急性呼吸器疾患です。2019年12月に初めて中国で報告され、その後世界中に流行が拡大し、日本では2020年2月に指定感染症に位置付けられました。埼玉県衛生研究所においても、2020年1月から行政検査としてCOVID-19のPCR検査を行っています。今回は当所における12月31日までの期間のCOVID-19の検査状況について報告します。

COVID-19(疑い及び接触者含む)25,796症例の検体が搬入されました(表1)。検査症例数は2月下旬から増えはじめ、6月に一旦減少しましたが7月上旬から再び増加し、12月に最多の5,227症例となりました。

週ごとの陽性率は、検査症例数の第一の波(1月～5月)では、3月下旬から高くなり4月6日～19日にかけて20%を超えましたが、5月は0%～4%まで低下しました。第二の波(6月～9月)では8月10日～16日の週をピークとして2%～11%の間で推移しました。10月以降の第三の波では、10月中旬から徐々に陽性率が上昇し、12月21日～27日の週には再び10%を超えました(図1)。

表1 COVID-19月別検査状況(2020年)

検体搬入月	検査症例数	SARS-CoV-2陽性症例数	陽性率(%)
1月	2	0	0
2月	123	2	1.6
3月	782	59	7.5
4月	2,275	316	13.9
5月	1,687	42	2.5
6月	673	17	2.5
7月	2,137	82	3.8
8月	3,203	150	4.7
9月	2,004	48	2.4
10月	2,774	132	4.8
11月	4,909	227	4.6
12月	5,227	407	7.8
合計	25,796	1,482	5.7

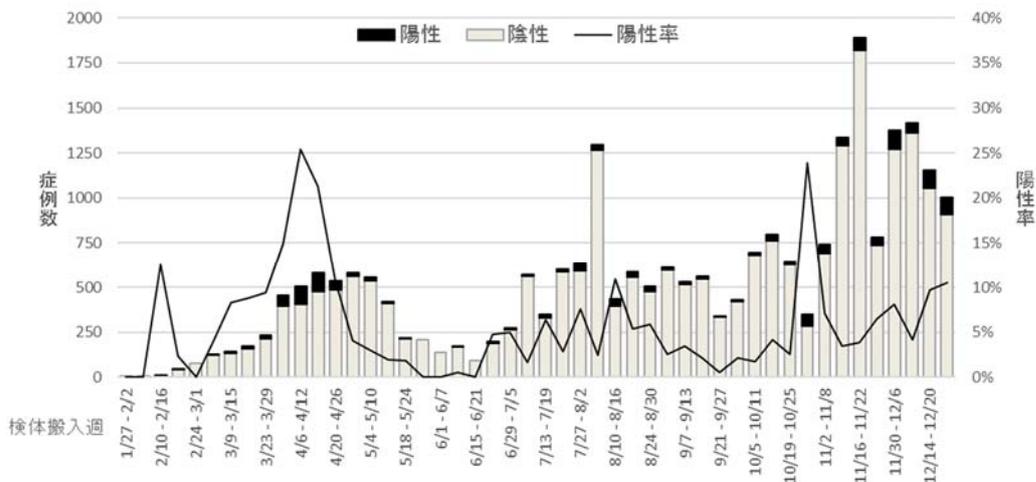


図1 COVID-19 週別検査状況

年代別の検査症例数は、10代の4,335症例が最も多く、20代及び40代が約3,000症例でした。また、10歳未満、30代、50代、80代の各年代が2,300症例から2,600症例、60代及び70代が約2,000症例、90歳以上では約1,100症例でした（表2）。

年代別の陽性症例の割合は、1月～5月では50代20.0%、40代18.4%、70代13.1%の順に高く、6～9月では20代21.9%、50代14.5%、40代14.1%で20代の占める割合が高くなりました。10～12月では20代及び40代が13.6%、50代が11.7%でした。また、10代や70代以上の年代の割合が増え、幅広い年代で陽性症例が確認されています（図2）。

表2 COVID-19 検査症例の年代別内訳

検査症例数*	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	合計
1-12月	2,358	4,335	3,085	2,552	2,908	2,675	1,984	2,080	2,309	1,083	25,369
1-5月	151	139	620	652	675	596	524	646	611	202	4,816
6-9月	770	1,109	1,086	866	887	867	618	619	601	287	7,710
10-12月	1,437	3,087	1,379	1,034	1,346	1,212	842	815	1,097	594	12,843

※年代不明症例は除く

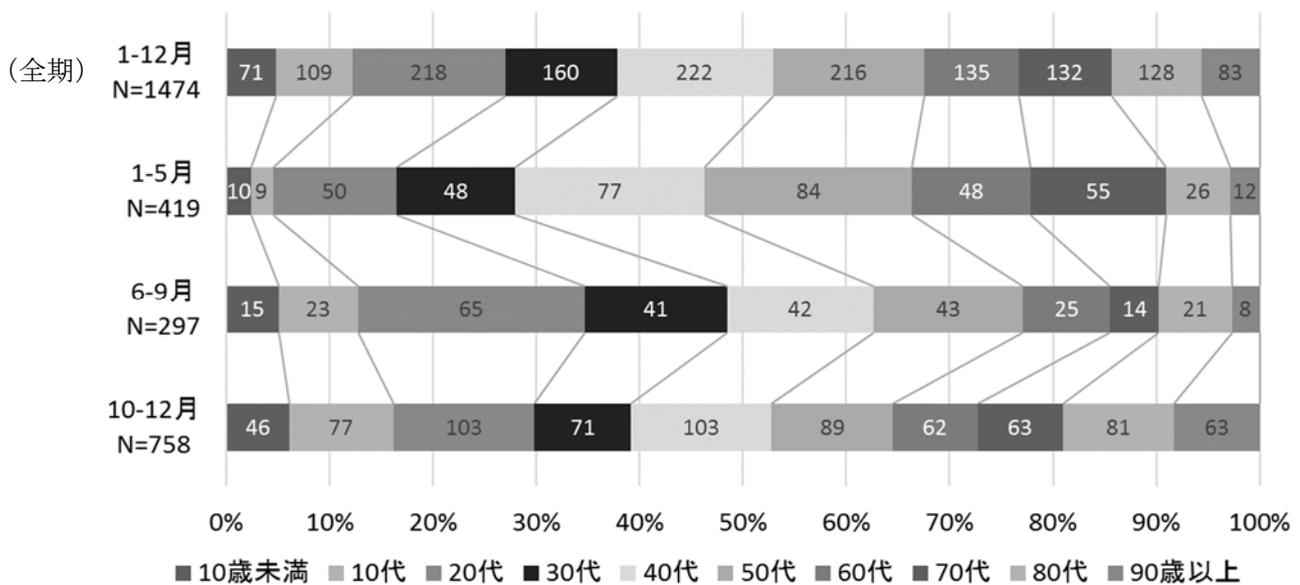


図2 COVID-19 陽性症例の年代別割合

なお、埼玉県では新型コロナウイルス感染症総合サイト (http://www.pref.saitama.lg.jp/a0301/covid19_sougousite.html) で情報提供を行っておりますのでご参照ください。